

スーダン

REPUBLIC OF THE SUDAN

任国情報

1990年

国際協力事業団
国際協力総合研修所

国際協力事業団

20876

は し が き

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務所員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とその御家族の多大なご協力を得ました。また、外務省、在外公館その他機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたく存じます。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

JICA LIBRARY

平成2年2月

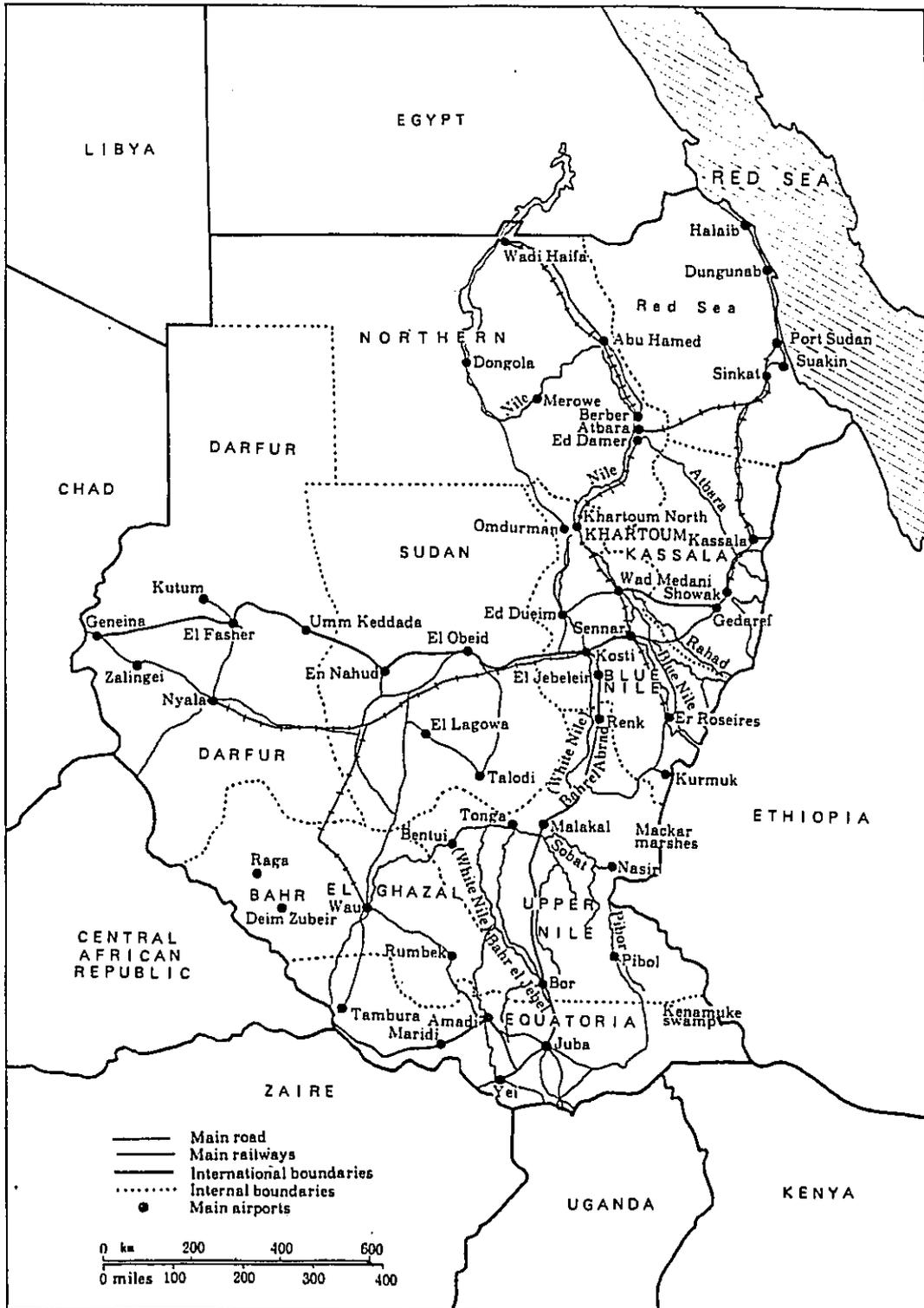


1080887111

20876

国際協力事業団
国際協力総合研修所所長

スーダン



目 次

	頁
I 一般事情	
1. 主要指標	1
2. 略 史	3
3. 政治, 外交	5
4. 経済事情	8
5. 我が国との関係	13
II 生活事情	
1. 食生活	22
2. 衣 料	28
3. 住 宅	31
4. 医 療	35
5. 教 育	42
6. 家庭の使用人	47
7. 交通事情	50
8. 通 信	54
9. マスコミ	56
10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ	58
11. その他のサービス	65
12. 観 光	66
13. 治安, 緊急時の心得	70
14. 出入国手続きおよび帰国手続き	72
15. 私財の輸送, 引取り, 購入	76
16. 社 交	78
17. 任国公官庁	79
18. 在外日本関係機関等	80
19. 地方都市	81
20. その他	82

I 一般事情

1. 主要指標

- 1-1 国名 スーダン共和国
The Republic of the Sudan
- 1-2 独立 1956年1月1日
- 1-3 首都 カルトゥーム Khartoum
人口 81万7,500人(1985年)
- 1-4 面積 250万5,813平方キロメートル
(日本の約6.7倍)
- 1-5 気候 11~3月までは比較的涼しく,年間を通じて最も
すこしやすく,雨はまったく降らない。4~6月ま
では,気温が爆発的に上昇し,年間を通じて最も
暑く,雨は少ない。7~8月は雨季で,雨はスコ
ールのような降り方で,時には大雨となる。9~10
月は再び酷暑の時期となる。

カルトゥームにおける平均気温表

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温(°C)	22.5	23.8	27.2	30.7	33.1	33.3	30.8	29.4	30.9	31.4	27.5	23.7
降水量(mm)	0	0	0	1	5	7	48	72	27	4	0	0
平均湿度(%)	31	26	20	19	24	28	34	56	47	31	31	34

- 1-6 人口 2,380万人(1989年推定)
- 1-7 人種構成 セム系アラブ人(主として北部,全体の75%)
ハム黒人(主として南部,全体の25%)
- 1-8 言語 アラビア語
- 1-9 宗教 イスラム教(北部)
キリスト教およびアミニズム(南部)

主要指標

1-10 政治

- (1) 政 体 共和制
- (2) 元 首 アハメド・アリ・アル・ミルガーニ 主権評議会議長
Mr. AHMED ALI AL - MIRGHANI
- (3) 議 会 国民議会
一院制 (273地方区および28大学卒業生区)
- (4) 政 党 ウンマ党 (UP), 民主統一党 (DUP)
イスラム国民戦線 (NIF), 南部諸政党

1-11 経 済

- (1) 国民総生産 76億5,000万ドル
1人当り330ドル (1987年)
- (2) 主要産業 農業 : 綿花, ゴム, ピーナツ, トウモロコシ
鉱工業 : クロム鉱, 砂糖, 繊維, 皮革
- (3) 貿 易 輸出 (FOB) 2億ドル
輸入 (FOB) 7億ドル (1988年推定)
- (4) 財 政 歳入 39億520万 スーダンポンド
歳出 67億9,000万 スーダンポンド
(1987/88年)
- (5) 通 貨 通貨単位 : スーダンポンド (Sudan Pound)
略 号 : LSd
為替相場 : 1US\$ = 4.5LSd (1989年10月末)
- (6) 外貨準備高 1,130万ドル
(1989年)
- (7) 対外債務 78億7,600万ドル
(1987年)

1-12 日本との時差

時差は7時間で、日本の正午はスーダンでは午前5時である。

2. 略 史

(1) 古代・中世

BC750年頃クシュ人王国がヌビアに栄えたが、エチオピア王アサクサム¹の侵入によりBC350年に滅亡。その後、ソバ、カルトウム²等を中心として諸王国が栄える。この間543年にキリスト教が、1205年にイスラム教がこの地域に伝えられている。

(2) 近 世

1820～1885年、エジプトのムハマド・アリの率いる軍によりスーダンはエジプトの一州としてその支配下に入る。象牙と黒人奴隷貿易が盛んとなる。

1881年、スーダン人ムハマド・アハマドがマハディ（イスラム教の救世主）と称して濁世浄化に乗り出し、1883年ヒックス・パシャの率いるエジプト軍を全滅させる。

1885年、マハディ軍鎮圧のために派遣されたゴードン³將軍が戦死、エジプト軍はスーダンより完全撤退。

1898年、イギリス軍がマハディ軍を破り、翌99年、スーダンはイギリス・エジプト共同統治下に入る。

・この間、北部アラブ人地域と南部黒人地域との分離統治政策が進められた。

(3) 現 代

1953年、「スーダンの自治および民族自決に関するイギリス・エジプト協定」により、スーダンは3年以内にみずからの将来を決定することとなる。

1955年、スーダン議会は、スーダンを独立の共和国とする旨宣言（12月19日）。

1956年1月1日、スーダン共和国 (Republic of the Sudan) 誕生。

1958年11月、イブラヒム・アブード⁴軍事政権が成立。同政権は、南部黒人非イスラム教徒の分離独立暴動により1964年10月崩壊。

1965年4月、総選挙実施、ウマン党と国民統一党連立内閣が成立。

1969年5月、ニメイリ大佐を中心とする陸軍中堅将校による無血クーデターが成功し、ニメイリ大佐を議長とする革命評議会が全権を掌握、国名をスーダン共和国からスーダン民主共和国 (Democratic Republic of the Sudan) に改称。

1976年7月、ウンマ党指導者マハディの主導によるクーデター未遂、クーデターの背後にカダフィ大佐がいるとしてリビアに断交通告。エジプトとの共同防衛条約に調印。

略 史

1982年10月, エジプトとの統合憲章に調印。

1983年, 南部州を3州に分割。シャリーア導入。南部黒人系キリスト教徒反政府勢力の動き活発化。

1985年4月6日, ニメイリ大統領訪米中にダハブ国軍司令官兼国防相による軍事クーデター発生, 4月9日暫定軍事評議会発足。ニメイリ大統領, エジプトに亡命。

1985年6月, リビアと軍事協定締結。

1985年12月, 国名をスーダン共和国(現国名)に改称。

1986年4月, 民政移管のための総選挙実施, 5月15日ウンマ党と民主統一党連立のマハディ文民政権発足。

3. 政治, 外交

3-1 最近の政情

- (1) マハディ連立政権は南部問題の平和的解決, 経済問題の解決および新シャリーア(イスラム法)の制定等を国内政策の重要課題としているが, それらの問題について容易に解決の見通しは立たず, 国内の政治不安が続いている。

すなわち, 1987年7月には主権評議会委員の人選問題をめぐり, さらに1988年1月には, カルトゥーム市内で発生したイラク・シーア派指導者の暗殺事件に係わる治安責任に端を発した内相の更迭問題をめぐりマハディ内閣は総辞職に追い込まれ, 同年5月第3次マハディ内閣(挙国一致内閣)が成立した。

- (2) 1988年11月, アデイス・アベバにおいて, 民主統一党はスーダン人民解放戦線(SPLA)との間で南部内戦の停戦のための和平協定に合意したが, 本協定の政府承認を巡り, 民主統一党とウンマ党, イスラム国民戦線(NIF)が対立, これを理由に12月, 民主統一党は, 全閣僚の引き上げを公表し, マハディ首相は民主統一党と折衝を行ったが合意が得られず, 2月内閣を改造し, 民主統一党をのぞいた第4次内閣が成立。

しかし, 同月ハリル国防相がマハディ内閣の政策決定におけるNIFの勢力拡大等を理由とし突然辞職, さらに, 国防軍はマハディ首相に対し経済・治安情勢の解決, 国防軍の強化および国内政治勢力の政権参加拡大等を要求し, NIFをのぞく全政党ならびに労働組合が時期政権擁立計画に合意したためマハディ内閣は総辞職し, 労働組合, 共産党等を含む第5次マハディ内閣が成立した。

スーダン人民解放戦線:

元政府軍将校ギャラン大佐の率いる非イスラム南部黒人組織(1983年結成)。南部最大の黒人部族ディンカ族出身者が多く, 兵力約2万人で, エチオピア領内に多数の基地を有しているといわれている。なお, SPLAはSudanese People's Liberation Armyの略。

政治, 外交

- (3) 最大の政治課題である南部問題についてはSPLA側は南部自治およびシャリーアの廃止等を要求し、1983年以來反政府攻撃を続けている。1986年5月発足したマハディ政権は同問題の平和的解決のためSPLAとの対話を継続していたが、同年8月SPLAがスーダン航空機を携帯地对空ミサイル(SA-7)で撃墜したことから、SPLAとの対決路線に転じた。しかし、最近は、エジプト、エチオピア、リビア等の周辺各国首脳による調停の動きもあり、マハディ政権は和戦両様による努力を続けている。
- 一方、民主統一党は独自にSPLAと南部問題解決に向け会談を行っていたが、1988年11月両者間で和平協定に署名した。1989年4月マハディ政権は、右協定を受諾した。
- (4) また、エチオピア、ウガンダ等周辺諸国からスーダンへ流入した難民は100万人を越え、干ばつ、南部内戦等に起因する国内難民は150万人にも達している。さらに、南部地域においては約200万人以上が飢餓の危機に瀕しており(1988年には約25万人の餓死者が出た旨伝えられている)、国連が中心となり南部地域の被災民援助活動(Operation Lifeline Sudan)を1989年4月より実施している。

Operation Lifeline Sudan:

1989年3月カルトゥームで開催された緊急援助国会議にて採択した行動計画に基づき、ユニセフ、WFP(世界食糧計画)、ICRC(赤十字国際委員会)を中心とし、食糧(約17万t)、医薬品等を被災地域住民に配分しようとする活動。この活動に対し、同年4月我が国は、ICRC、WFPに、各々2億円、計4億円を拠出。

3-2 外 交

- (1) スーダンは、中立非同盟主義、アラブ諸国との団結・善隣・相互協力を基調とする政策をとり、欧米との関係にも意を用いる現実的かつ穏健な路線をとっている。
- (2) マハディ政権は発足以来、周辺国、特にニメイリ時代に関係が悪化していたリビアおよびエチオピアとの関係改善に努めてきた。
- しかし、エチオピアとの関係はエチオピアがSPLAを支援し、また、スーダンがエリトリア分離主義運動を支援しているといわれており、微妙な関係にあるが、1987年12月エジプトの仲介により両国首脳会談が行われ、両国関係改善に向けての合同委員会の開催に合意。1988年3月ジブチで第一回会合が行われた。
- また、1988年12月フクレセラセ・エチオピア首相がスーダンを訪問

するなど、要人の往来も活発化しつつあり、関係改善の兆しが見られる。

- (3) リビアとの関係については、リビアはニメイリ時代にはSPLAを支援し、スーダン政府との関係は悪かったが、1985年4月グハブ暫定軍事政権発足以降は逆にスーダン政府側を支援。1986年5月マハディ政権発足後、同年8月マハディ首相が最初の外遊先としてリビアを訪問、リビアのカダフィ大佐も同年9月スーダンを訪問している。さらに、1987年12月、1988年11月マハディ首相はリビアを訪問し、軍事援助を含め、両国関係の強化についてカダフィ大佐と会談を行った。
- (4) 一方、伝統的に関係の深いエジプトとは、スーダンの対リビア接近に対しエジプトが警戒の念を強めたこともあり、両国関係は一時停滞していた。しかし、1987年2月マハディ首相がエジプトを訪問し、ムバラク大統領と会談するとともに、ニメイリ時代(1982年)に調印された統合憲章に代わる友好憲章に調印するなど、両国関係は改善をみせている。しかし、エジプトに亡命中のニメイリ前大統領の引渡し問題が最大の懸案となっている。
- (5) ニメイリ時代友好関係にあったアメリカ合衆国との関係はマハディ政権発足直後一時停滞したが、1986年10月マハディ首相が訪米し、両国関係は改善に向い、それまで2年間凍結されていたアメリカ合衆国の対スーダン経済・軍事援助が解除された。しかし、最近、アメリカ合衆国内には、スーダン南部の内戦および国内避難民に関し、スーダン政府を非難する動きもみられる。
- (6) ニメイリ時代関係が悪化していたソビエト連邦との関係については、1986年8月のマハディ首相がソビエト連邦を訪問し、1970年代初めに実施されたソビエト連邦の援助による農産物関連工場および軍事関連施設等の修復と年間5,000万ドルの貿易協定を締結した。しかし、その実施は進捗せず、両国関係に大きな進展はみられていない。

4. 経済事情

4-1 概 観

スーダン経済は1987年末で約82.5億ドルにのぼる公的対外債務(世銀W.D.T)、南部内戦および150万人以上ともいわれる国内避難民および近隣諸国からの流入難民(100万人以上)による財政負担、並びに南部石油開発等の主要開発プロジェクトの遅延など、多くの問題を抱えている。

マハディ首相はスーダン経済の苦境を訴え、外国から援助を得るため、積極的にサウディ・アラビア等の湾岸諸国、欧米諸国および、ソビエト連邦や東欧諸国を歴訪している。

また、1986年2月、国際通貨基金(IMF)から新規融資資格を停止されたが、1987年10月、IMFとの合意に基づく新経済政策を発表。さらに、1988年6月に経済復興・開発4カ年計画(1988/89年~1991/92年)を策定した。しかし、同年7、8月36年振りの大豪雨・洪水により大きな被害を受け、その復興が大きな課題となっている。

4-2 産 業

農業が、労働人口の約60%、GDPの約37%を占める。農作物は、綿花が圧倒的に大きな比重を占めているが、綿花のほかに、落花生、ゴム、アラビアゴム、デュラ(アフリカ北部等で産する食用とうもろこし)等がある。農業開発の可能性(人口が比較的少なく広大な国土の約3分の1が耕作可能地であるにもかかわらず、耕作地はわずかその10%程度、ナイル川が国土を縦断しており、水資源に富むなど)を有しているが、開発の推進に必要なインフラストラクチャーの未整備などにより、農業は依然低迷している。

主要農産物(綿花をのぞく)

(単位: 1000フェッターン, 1,000トン)

品名 \ 年	1982/83	1983/84	1984/85	1985/86	1986/87 (推定)
デュラ 耕作面積 生産高	8,665 1,965	8,932 1,828	7,987 1,097	12,875 3,542	11,658 3,605
Dukhn 耕作面積 生産高	2,723 339	3,025 314	3,126 158	4,108 428	3,536 544
落花生類 耕作面積 生産高	1,862 497	1,834 413	1,708 378	951 274	1,222 454
ごま類 耕作面積 生産高	1,999 163	2,177 206	1,828 130	2,474 131	2,575 301
小麦 耕作面積 生産高	233 141	349 169	115 79	360 199	358 200

※ 推定

経済事情

4-3 財 政

スーダンの1987/88年度国家予算は歳入総額39億500万LSd(約8.7億ドル), 歳出67億9,100万LSd(約15.1億ドル)で, 赤字分28億8,500万LSd(約6.4億ドル)は, 対外借入れと贈与により補うとしている。予算の重点は, 国内財政および対外収支のバランスの是正, 国内生産および生産性の向上およびインフラ整備等に置かれている。

国 家 予 算

(単位: 10,000スーダン・ポンド)

	1987/88	1986/87
歳 入	39億 520	26億 8,280
課 税	23億 7,920	16億 7,000
免 税	13億 4,800	10億 1,280
地方公共団体	1億 7,800	-
歳 出	67億 9,000	55億 4,200
經常支出	52億 3,220	36億 1,620
開 発	15億 3,340	5億 2,000
赤 字	28億 8,480	28億 5,920
必需品等	18億 700	19億 5,200
プロジェクト・ローン	5億 7,220	6億 8,520
その他	5億 560	2億 1,900

4-4 貿易, 国際収支

スーダンの貿易構造は, 農産物(主として綿花)を輸出し, 工業製品を輸入するというパターンであり, 輸出は主要輸出品たる綿花(全輸出量の約1/3)の作柄, 市況に左右され, 安定を欠いている。

貿易バランスは大幅な入超であり, 石油製品, 工業製品が全輸入額の約44%を占めている。

主要貿易品目

輸出

(単位: 百万スーダン・ポンド)

品目 \ 年	1982	1983	1984	1985	1986	1987
綿	121.1	396.0	405.0	374.3	366.7	455.2
アラビアゴム	40.1	76.2	66.4	66.0	141.7	267.1
落花生	33.2	17.5	26.8	23.1	2.5	10.1
ごま	38.1	70.2	96.1	97.8	58.9	134.8
家畜類	59.0	72.6	80.9	145.0	66.8	38.9
デュラ	107.5	66.6	7.2	-	13.9	248.8
落花生加工品	12.3	22.4	23.1	1.8	8.1	15.5
計(その他を含む)	483.1	810.7	817.3	844.7	833.2	1,497.1

輸入

(単位: 百万スーダン・ポンド)

品目 \ 年	1982	1983	1984	1985	1986	1987
茶	17.0	40.2	30.0	94.7	71.9	39.8
小麦	22.3	52.2	38.2	78.6	57.0	199.5
砂糖	66.0	31.5	18.7	1.0	0.02	52.6
その他の食料品	96.1	128.5	109.1	214.0	236.2	121.6
機械類	186.5	266.8	217.2	354.0	405.7	484.9
輸送機器	160.5	173.5	148.8	241.6	434.1	368.9
医療, 化学品	99.1	213.9	182.2	261.8	341.2	248.1
織物	30.1	30.7	23.9	34.2	71.1	84.9
石油, 石油製品	328.8	448.0	409.1	298.7	257.6	497.9
工業品	180.9	344.3	279.0	514.6	481.4	501.0
飲料, タバコ	17.4	20.7	28.5	15.8	14.3	13.7
計(その他を含む)	1,213.8	1,760.9	1,490.8	2,128.8	2,402.2	2,613.0

経済事情

主要貿易相手国

(単位：構成比・%)

国名	年	輸出国			輸入国		
		1985	1986	1987	1985	1986	1987
サウディアラビア		20.1	13.5	9.5	14.0	14.9	21.0
イギリス		2.7	4.1	8.2	11.3	11.8	10.4
西ドイツ		5.7	5.7	7.3	8.7	8.5	7.3
アメリカ合衆国		3.3	5.4	4.7	7.6	7.7	10.4
オランダ		0.3	1.6	10.4	5.2	7.1	4.5
日本		7.2	6.7	6.3	8.9	5.0	7.4
ベルギー		1.6	1.6	5.1	4.0	4.4	4.8
エジプト		10.0	8.1	3.5	1.8	4.2	6.5
フランス		2.5	5.7	4.0	5.0	3.6	3.5
イタリア		5.5	7.1	10.8	3.7	3.3	3.4

国際収支

(単位：100万ドル)

年	1983	1984	1985	1986	1987	1988
経常収支	-219.5	25.4	151.7	-20.6	-232.7	-323.3
貿易収支	-188.9	-80.8	-134.8	-306.9	-429.7	-521.5
輸出(FOB)	514.2	519.0	444.2	326.8	265.0	427.0
輸入(CIF)	-703.2	-599.8	-579.0	-633.7	-694.8	-948.5
貿易外収支	-276.4	-190.9	-70.8	-47.2	-131.2	-135.1
移転収支	245.8	276.8	248.6	89.3	133.7	216.3
長期資本収支	1.1	-76.3	-106.9	-111.0	-233.1	71.4
短期資本収支	-140.3	-77.7	-336.0	16.0	322.1	-7.7
誤差脱漏	175.8	1.6	-116.3	-89.3	-185.3	7.5
総合収支	-182.9	-118.0	-410.6	-204.9	-329.1	-252.1

5. 我が国との関係

5-1 政治, 外交

我が国は1956年1月6日スーダンの独立を承認し、翌年2月にカルトゥームに公使館を設置した。同公使館は1961年4月に大使館に昇格した。

一方、スーダンは1961年9月に在日大使館を設置した。その後1970年2月に一時閉館し、1973年8月に再開した。

5-2 経済, 貿易

我が国は、スーダンから綿花、アラビアゴム等を輸入し、同国に対し、機械その他の工業製品を輸出している。1988年の輸入額は6,000万ドル、同輸出額は7,200万ドルとなっている。直接投資については、1988年までの累計で3件、400万ドルである。

対スーダン貿易

(単位：1,000ドル)

商 品	1986年		1987年		
	金 額	構成比 (%)	金 額	前年比 (%)	構成比 (%)
輸出総計	54,657	100.0	77,876	142.5	100.0
[食料品]	2	0.0	9	450.0	0.0
[原燃料]	156	0.3	45	28.8	0.1
[軽工業品]	1,828	3.3	2,423	132.5	3.1
繊維品	99	0.2	232	234.3	0.3
非金属鉱物製品	-	-	-	-	-
その他の軽工業品	1,546	2.8	2,002	129.5	2.6
[重化学工業品]	51,966	95.1	75,392	145.1	96.8
金属品	4,872	8.9	10,158	208.5	13.0
機械機器	37,718	69.0	61,730	163.7	79.3
[再輸出・特殊取扱品]	706	1.3	8	1.1	0.0
輸入総計	42,924	100.0	42,521	99.1	100.0
[食料品]	49	0.1	20	40.8	0.0
[原料品]	42,601	99.2	42,348	99.4	99.6
[加工製品]	171	0.4	58	33.9	0.1
[再輸入・特殊取扱品]	103	0.2	94	91.3	0.2

我が国との関係

5-3 経済・技術協力

我が国は、スーダンがLLDCであり、開発が立ち遅れているだけでなく、旱魃、洪水の影響、周辺からの難民の流入等多くの問題を抱えて、極度の経済不振に陥っており、援助需要はきわめて大きいこと、同国の安定が周辺地域の安定にも寄与することなどを考慮して、無償資金協力を推進している。

1988年度までの我が国援助の累計実績についてみると、無償資金協力は559億円で、これは域内で第1位であり(世界計でも第9位)、我が国の無償資金協力の重点対象国となっている。

我が国の二国間援助(支出純額ベース)に占める各援助形態のシェアは、上記のような状況を反映して、近年、無償資金協力の占めるシェアがきわめて大きく、1988年には無償資金協力93.8%、技術協力6.2%と我が国の援助はすべて贈与であった。1988年支出純額は5,957万ドルであり、これは域内でエジプト、トルコ、シリアに次ぎ第4位の規模である。他国、国際機関よりの援助については、1980年代に入り、DAC諸国からの二国間ODAの比重が高まってきており、その援助額は、1987年支出純額で4億4,308万ドルに達している。形態別には同国の経済状況を反映し、無償資金協力のシェアが62.7%に上っている。主要援助国(DAC諸国)は、第1位アメリカ合衆国(シェア23.2%)、以下イタリア(シェア17.9%)、日本(同17.5%)、オランダ(同13.3%)と続いている。

国際機関の援助も活発に行われており、1987年出純額で、2億5,104万ドルのODAが供与され、IDAが最大の援助機関(シェア23.7%)であるほか、EDF、UNHCRなどが主要援助機関である。

無償資金協力については、累次の食糧増産援助、1986年度の「食糧倉庫建設計画」などの食糧・農業分野に対する協力、1985年度の「首都圏衛生改善計画」などの保健・医療分野に対する協力、1985年度、1986年度、および1987年度の「カサラ地方水供給計画」等の水供給分野に対する協力など基礎生活分野を中心に協力を行った。また、1986年度、1987年度の「ゲジラ通信網整備計画」など、基礎インフラ整備についても協力を行った。1987年度には構造調整支援等のためのノンプロジェクト無償資金協力25億円を供与した。

技術協力については、1988年度までの累計実績では、研修員受入れ566人、専門家派遣66人、プロジェクト方式技術協力1件、開発調査9件となっており、保健・医療分野におけるプロジェクト方式技術協力(「ハルツーム教育病院」)、鉱工業、運輸・交通、通信などの分野における開発調査をはじめ、農業、工業、インフラ、人的資源等の広範な分野が対象となっている。

我が国との関係

近年、同国は債務状況が悪化しているため、債務繰延をのぞき、1983年度以降、円借款の供与を行っていない。

我が国の援助対象分野としては、上述のようにきわめて厳しい同国の社会経済状況を踏まえ、基礎生活分野において、食糧・農業、保健・医療、水供給等を重点分野として、幅広く協力を推進するとともに、同国のかかる厳しい状況を踏まえ、運輸・通信等基礎インフラ分野についても援助を推進している。

我が国のODA実績

(支出純額, 単位: 10,000ドル, ()内は%)

暦年	贈 与			政府貸付け	合 計
	無償資金協力	技術協力	計		
1984年	1,722 (3.2)	134 (0.3)	1,856 (1.7)	1,022 (0.8)	2,878 (1.2)
1985年	2,456 (3.9)	93 (0.2)	2,554 (2.2)	28 (0.0)	2,582 (1.0)
1986年	3,100 (3.6)	172 (0.2)	3,272 (1.9)	- (-)	3,272 (0.9)
1987年	7,376 (6.4)	227 (0.2)	7,602 (3.4)	168 (0.1)	7,770 (1.5)
1988年	5,589 (3.7)	368 (0.3)	5,957 (2.0)	- (-)	5,957 (0.9)

(注) ()内は、我が国二国間のODA各形態別総計に占める割合。

年度別・形態別実績

(単位: 億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1983年度 までの 累計	105.00億円 道路建設計画 (76年度, 30.00) 国鉄輸送力強化計画 (77年度, 20.00) 水道機材供与計画 (77年度, 30.00) 商品借款 (82年度, 25.00)	206.28億円 (内訳は注3)	19.28億円 研修員受入れ 352人 専門家派遣 30人 調査団派遣 160人 機材供与 1億4,740万円 開発調査 8件

我が国との関係

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1984年度	なし	65.57億円 地方ラジオ放送網拡張計画 (19.51) 食糧援助 (3.11) 食糧増産援助 (15.00) 食糧援助(追加) (4.00) ゲジラ大学食品加工学科 改善計画 (7.00) 北部農機道路整備計画 (6.88) 難民用食片輸送増強計画 (2.12) 栄養改善計画(魚缶詰) (3.00) スポーツ最高評議会に 対する体育機材 (0.45) 災害援助 (0.32) 難民向け食糧援助 (4.18)	2.57億円 研修員受入れ 40人 専門家派遣 1人 調査団派遣 22人 機材供与 330万円
1985年度		69.49億円 青ナイル川流域感染症対 策計画 (5.43) ゲジラ通信網整備計画(1) (5.07) 食糧増産援助 (15.00) カサラ地方水供給計画(1) (9.36) 首都圏衛生改善計画 (17.49) 食糧援助 (12.00) 難民向け食糧援助 (5.14)	2.32億円 研修員受入れ 42人 専門家派遣 6人 調査団派遣 20人 機材供与 690万円 プロジェクト技協 1件

我が国との関係

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1986年度	2.42億円	65.29億円 ゲジラ通信網整備計画 (II) (29.52) 食糧倉庫建設計画 (9.91) カサラ地方水供給計画 (II) (6.46) 食糧援助 (7.00) 食糧増産援助 (12.00) ハルツーム大学に対する 研究教育機材 (0.40)	3.02億円 研修員受入れ 42人 専門家派遣 6人 調査団派遣 20人 機材供与 4,520万円 プロジェクト技協 1件
1987年度	なし	94.44億円 ゲジラ通信網整備計画 (III) (20.29) 燃料輸送網整備計画(I) (8.16) カサラ地方水供給計画 (III) (15.00) 空港改修計画 (7.00) 食糧援助 (6.50) 食糧増産援助 (12.00) 国立高等音楽演劇学院に 対する楽器照明機材 (0.49) ノンプロジェクト援助 (25.00)	3.00億円 研修員受入れ 39人 専門家派遣 13人 調査団派遣 18人 機材供与 4,460万円 プロジェクト技協 1件

我が国との関係

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1988年度		58.16億円 燃料輸送網整備計画(II) (13.31) オムドルマン地区緊急給 水改善計画(I) (7.51) 北部地方道路整備計画 (7.59) マラリア防除緊急計画 (6.50) 学校・医療施設復旧緊急計 画 (4.50) 霖雨による洪水災害に対 する緊急援助 (0.27) 国内避難民救済の乾パン援 助(WFP経由) (0.48) 食糧援助 (5.00) 食糧増産援助 (13.00)	4.98億円 研修員受入れ 48人 専門家派遣 14人 調査団派遣 67人 機材供与 6,630万円 プロジェクト技協 1件 開発調査 1件
1989年度 までの 累計	107.42億円	559.23億円	35.17億円 研修員受入れ 556人 専門家派遣 66人 調査団派遣 310人 機材供与 3億1,380万円 プロジェクト技協 1件 開発調査 9件

- (注) 1. 「年度」の区分は、有償資金協力は交換公文締結日に、無償資金協力および技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、有償資金協力および無償資金協力は交換公文ベースに、技術協力はJICA経費実績ベースによる。

我が国との関係

1983年度までの無償資金協力実績

(単位：億円)

年度	案 件	金 額
1975	食糧援助	1.54
1977	ガサバ地区パイロット農場建設計画 [81]	5.00
1978	栄養改善計画	4.00
	災害援助	2.00
	食糧増産援助	4.00
	債務救済	0.52
	計	10.52
1979	ガサバ地区パイロット農場拡充計画 [81]	10.00
	漁業振興計画	2.00
	食糧増産援助	5.00
	栄養改善計画	1.00
	計	18.00
1980	青ナイル川流域感染症対策計画	4.00
	食糧増産援助	8.00
	計	12.00
1981	給水電力事情改善計画	4.00
	青ナイル川流域感染症予防対策計画	4.00
	社会福祉計画	4.00
	漁業水域開発計画	5.00
	食糧増産援助	8.00
	社会開発計画	2.00
	ガサバ地区パイロット農場拡充計画	1.50
	食糧援助	7.70
	難民向け食糧援助	4.89
計	41.09	

我が国との関係

(単位：億円)

年度	案 件	金 額
1982	食糧援助	7.53
	食糧増産援助	10.00
	ハルツーム大学付属病院建設計画	15.80
	給水改善計画	6.00
	社会福祉計画	2.00
	債務救済	3.99
	ソバ大学病院改善計画	2.75
	社会開発計画	2.00
	難民向け食糧援助	5.37
	計	55.44
1983	ハルツーム大学付属病院建設計画	14.90
	給水改善計画	14.70
	青ナイル川流域感染症予防対策計画	6.00
	食糧援助	5.80
	食糧増産援助	1.00
	ゲジラ大学繊維学科改善計画	4.00
	ハルツーム大学に対する印刷製本機材・	0.50
	難民向け食糧援助	5.79
	計	62.69

(参考1) 1988年度実施プロジェクト方式技術協力案件

区 分	プロジェクト名	協 力 期 間
保 健 医 療	ハルツーム教育病院	85.4~90.3

(参考2) 1988年度実施開発調査案件

区 分	案 件 名
運 輸	新白ナイル橋建設計画

(参考)「経済復興・開発4カ年計画」(1987/88年～1990/91年)の概要

(イ) 年率5%以上のGDI成長

(ロ) 食糧の確保

(ハ) 財政の安定

(ニ) インフレの抑制

(ホ) 経常収支の赤字の縮小による対外援助の依存度の減少

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

スーダン料理は、パンまたは、ケスラ(ドウラという穀物で作る)等の主食と、フル(煮豆)や肉料理等の副食からなる。ハルツーム市民の多くはイスラム教徒であり、乾期と雨期による食品数には格段の差があると同時に、イスラムの行事によって、出回る品々や物価の変動がある。旱魃や内戦によるエチオピアからの難民をかかえ、加えて1988年夏の洪水とバッタの被害により、食料事情はよくない。特に夏はわるい。

(2) 主な食品の出回り状況

1年中出回っている物は、ジャガイモ、玉ねぎ、人参。5月から9月頃までは乾期と洪水があり、食料が乏しくなるので、ほとんどの外国人たちは、家庭に大きな冷凍冷蔵庫を置いて、半年分くらいの非常食を確保するよう心がけている。

野菜、肉、魚をのぞいては、ほとんど輸入品で、それも不定期に輸入されるので、何がいつどこにあるとは一概にいえぬ。必要な物はみつけたら買っておくのが原則である。

米 : アラビア米で、焼飯として利用する程度である。

野菜 : ジャガイモ、人参、玉ねぎ、赤かぶ、サニーレタス、キャベツ、カリフラワー、なす、いんげん、グリーンピース、きゅうり、ズッキーニ、かぼちゃ、オクラ、パセリ、トマト、ピーマン、ジルジル(ホーレン草に似ている葉)。小さなダイコンもあるが、水気が少ない。

果物 : 季節に応じて色々出ており、グレープフルーツ、オレンジ、ネーブル、レモン、マンゴー、メロン、スイカ、グアバ、バナナ等。

魚類 : テラピアとナイルパーチ、ナマズ。

調味料 : 塩、ケチャップ、マスタード、マヨネーズ(アメリカン風)、バター、コショウ、シャッタ(トウガラシ)、クローブ、干ジンジャー、シナモン、ナツメ、ペパーミント、ローズマリー等で、植物油は癖がある。

砂糖：配給制で入手に苦勞する。

(3) 食料の入手方法

日本食の調達は困難で、赴任時に携行するか、後日ヨーロッパやケニアへ旅行した時、補充する。

その他の食料品は、セントラルスクやデューティフリーショップ(ドルショップ)、あるいは、外人向けのスーパーストアで買い求める。ある程度アラビア語がわかるようになれば、行きつけの店を作っておくと、ボラれずに親切にもらえる。

なお、飲酒は禁止されていて、酒類の持ち込みも禁止されている(1989年現在)。

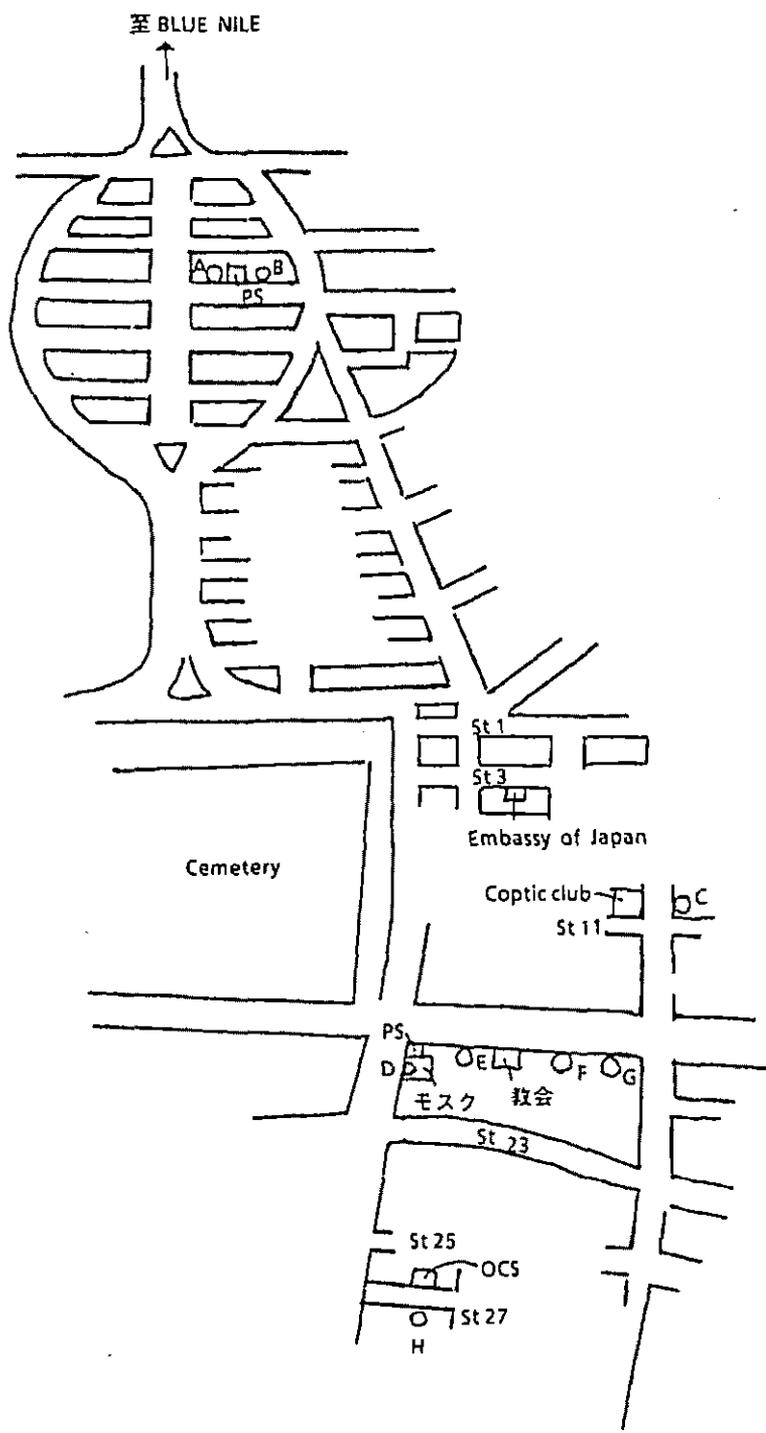
日本から持参したほうがよいと思われる食料品は、のり、ワカメ、小魚等の海産物のほか、米、そば、小麦粉(パン用強力粉)と、しょうゆ、みりん、ソース、かつおぶし等の日本独特な調味料を持っていったほうがよい。また、化学調味料も必要である。その他持っていったほうがよいものには、酢(スーダンの酢は酸味ばかりでうまみがたりない)、ねりがらし、マヨネーズ(スーダンののはアメリカン風で口に合わないかもしれない)、こしょう(スーダンののは粒で高価である)。缶入りバター(スーダンのものはくさみがある)、粉チーズ、サラダ油、ゴマ油。

この他のものとしては生しょうがを持って行き、冷凍しておくとう便利である。

配給の切符を手に入れるまでの当座の砂糖や、店のようすがわかるまでに必要な調味料は絶対持参したほうがよい。

日本人がよく利用する店を次ページに記す。

食生活



- A. Happy family center
鳥肉, 牛肉, レバー, ひき肉, 卵
- B. Araki
牛肉, 羊肉, ヒレ肉
- C. Looli Center
牛肉, ヒレ肉, レバー, タン, 鳥肉
ソーセージ, バター, ケーキ
- D. 八百屋
品数は少ない。アラビア語しか通じないが, 店主は正直者。
- E. Ziena
鳥肉, 缶詰, スパゲッティ, バター, ヨーグルト, 菓子類, その他。石けん, ナブキン, トイレットペーパー, 乾電池, 殺虫剤, その他。
- F. Elhawi
缶詰, びん詰, スパゲッティ
ヨーグルト, パン, 石けん, 歯みがき粉, その他
- G. Falouk
石けん, ナブキン, モップ, 乾電池, マッチ, 殺虫剤, 扇風機, その他。缶詰, びん詰, スパゲッティ, ヨーグルト, バター, その他。
- H. 卵屋
水色の門の中にある。他の店より卵黄が黄色い卵が多い。

食生活

1-2 調理,食器具等

(1) 調理,食器具の入手

外国人向け住宅には,食器や調理器具付きのものもあるので,事前に確認しておく必要がある。デューティフリーショップ(ドルショップ)やスークにある物はよくなく,欲しい物がいつもあるとは限らない。

主に手に入る物としては,洋式の皿,コップ,ナイフ,スプーン,フォーク,鍋,やかん,フライパン等。電気器具は冷凍冷蔵庫,電熱器,オーブントースター,ミキサー等。安価な物は台湾製や香港製が多い。

(2) 日本から持参したほうがよい調理,食器具等

きゅうす,湯炊茶碗,飯茶碗,汁椀,箸,割箸,つま楊枝等は前任者からゆずり受けるか,日本から持参しないと手に入らない。

スーダンは,非常に乾燥しているので,漆器類は避けたほうがよい。

冷凍,冷蔵する機会が多いので,ビニール袋やタッパ(15×20cmくらいの大型のものは入手可能)等の容器は持っていったほうがよい。ほかに,ペーパータオル,まな板,包丁,砥石,おろし金,しゃもじ,茶箸,蒸し器,のり巻きを作るならば巻きす,カン切り(スーダンのものは少し使いにくい),のべ棒,各種計量器,電気釜。また,パンを焼く機会が多くなるので,パン焼き器。変圧機や税金の問題が解決されるなら,電子レンジがあると重宝する。

スーダンは240V 50サイクルで,それぞれの容量に応じたトランスやテーブルタップ等を用意する必要がある。

1-3 外 食

(1) 飲食店

日本料理店はない。日本人がよく利用するレストランは次のとおりである。

飲食店一覧表

店 名	料理の種類	住 所 / TEL	備 考
韓国館	韓国および 中国料理	AFRICA, RD, st 29 TEL: 42482,41318,	
中華飯店	中華料理	AFRICA RD, st 15 TEL: 42897	
ヒルトンホテル	西洋料理	NILE RD TEL: 74100,78930	チップは3~5 Sポンド。 予約不要

(2) その他の飲食店

店 名	備 考
カルトゥームIIのブスターグ2	スークIIの四ツ角にあり、普通のスーダン料理とエチオピア料理が食べられる。
アメリカンクラブ	ハルツームIIにあり、会員制(入会金300,個人会費600Sポンド/年[1988年])だが、スポーツ、娯楽施設と食堂が利用できる。

衣 料

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

1年は乾期と雨期の2シーズンしかなく、3月から11月は夏服、12月から2月は秋物といった感じである。はっきりした区別があるわけではなく、自分にあう物を自由に着ている。また、ほこりっほいので、必ず着がえの服を用意したほうがよい。紳士ものでいえば、夏服の背広と替ズボンや、半袖および長袖のYシャツ、それもなるべく汚れが目立たない色物がよい。夜は冷える時があるので、パジャマは夏冬両方用意したほうがよい。風の強い日には、ウインドブレーカーがあると便利である。カーディガンも1~2枚あるとよい。

一般に出回っている衣類や毛布は、品質がよくない。毛布やシーツは、家具付き住宅にはついているのが普通である。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

上着、下着、履き物等、すべて自分にあった物を探すのは大変だし、質もわるいので、大人用は持参したほうがよい。特に、ランニングやパンツ、靴下等は多めにあったほうがよい。

子供の服なら、プリントの布地や無地の布がスークでも調達できるので、自分で仕立てる気になればなんとかなるが、Tシャツや半ズボン、パンツ等の下着や水着は、日本から持参したほうがよい。運動靴は2足以上ほしいし、ビーチサンダルや室内用スリッパもほしい。

(3) 任国で調達したほうがよい衣料

現地の女性が使用しているトウブ(薄布)は、日やけやほこりよけになり便利である。また、男性が着ているガラビヤ(白いワンピース)は、家の中でくつろぐ時などに、ゆかたの代用品としてよい。

(4) その他留意すべき事項

生理用品、帽子、サングラス、タオル、ハンカチ、おしほり等は、日本から持参したほうがよい。

就学児童のいる家庭で、アメリカンスクールへ通学する場合は、体操着用にTシャツと半ズボンが必要である。また、弁当箱や、ナップザック等のカバンも必要である。インターナショナルスクールでは、男女とも、白のシャツあるいは、ブラウスと、黒のズボンまたは、スカートと定められている。

2-2 礼 装

(1) パーティー

紳士は背広と長袖または、半袖のYシャツ。婦人はワンピースかツーピース。色はこだわらなくてよい。ロングドレスは、屋外でのパーティーの時、虫よけとしてよいかもしれないが、特に着用する機会はない。また、和服を着用する行事も今のところない。

(2) 式 典

パーティーの時と同様で、紳士は背広、婦人はワンピースかツーピース。色はこだわらなくてよいが、紺を持っていれば無難である。

(3) その他の冠婚葬祭

スーダンでの正装は、白色のトウブとガラビアであるが、冠婚葬祭用として特別な服は必要ない。持参した服の中から華やかな物をお祝い用に、地味でシンプルな物をおくやみ用に着ればよい。

(4) その他留意すべき事項

婦人は月2回、大使公邸のお茶会があるので、着こなしに変化をつけられる洋服を数着用意したほうがよい。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗 濯

ドライクリーニングは、ヒルトンホテルの中に洗濯屋があるが、ズボンの折り線等がなん重になってくることを覚悟して出さねばならない。普通の洗濯は、メイドなりボーイがやるから問題はない。乾燥は速い。アイロンは、殺菌の意味でかけたほうがよい。

各家庭では、洗濯機とアイロンを用意している。電気製品は高価で、洗濯機は重いし、アイロンはワット数が多いから、デューティフリーショップ等で用意したほうがよい。洗剤は割合に手に入りやすい。

なお、水が茶色く濁る時があるが、カリミヨウバンを持参して、バケツ等に溜めた水の中に少量加えて半日くらいつけ置きしておく、上澄みを使用できるようになる。

(2) 仕立て、修繕

スーダン人は器用であるが、おおまかである。

衣 料

(3) 保 管

家具付きの貸住宅の大部分には、洋服ダンスがついている。乾燥している時が多いので、7月、8月のほかは、それほど保存には困らない。しかし、ほこりっぽいので、大きなビニール袋に入れるとか、防虫剤を持参したほうがよい。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

1988年の水害で、家を失なった人たちがテント住いをしている地区があったり、エチオピアからの難民が、カルトゥームに住みついたりしているために、一般の住宅事情はわるくなっている。しかしながら、住宅の建設も、わずかながら進みつつある。

外国人向け住宅の持ち主は、エジプトからの帰化人や、自分は国外に住みながら、持ち家を貸しているスーダン人が多く、住宅事情は決してよいとはいえない。

(2) ホテル事情

カルトゥームの主なホテルは次のとおりである。

カルトゥームの主なホテル

ホテル名	TEL	住 所 / TLX	料 金
Hilton Hotel ☆☆☆	74100, 78930	Nile Avenue, P.O. Box 1910 TLX : 22250 FAX : 249 - 11 - 75793	Single US\$135 + 20% + 5 Sポンド Twin US\$155 + 20% + 10 Sポンド
Grand Hotel ☆☆	72782, 72714	Nile Avenue P.O. Box 316 TLX : 22436	Single US\$ 95 Twin US\$126
Meridien Hotel ☆☆	75970, 79066	EL.Oasr Avenue P.O. Box 1716 TLX : 22499, 22974	Single US\$115 Twin US\$125
Friendship Palace Hotel	78204, 78205	Khartoum North, P.O. Box 148. TLX : 26017	Single US\$110 + 20% + 5 Sポンド Twin US\$130 + 20% + 10 Sポンド * カルトゥーム市内から やや離れるため、交通の 便がわるい

住 宅

カルトゥームの主なホテル (つづき)

ホテル名	TEL	住 所 / TLX	料 金
Acropole Hotel ☆	72860, 72026, 70898	El. Gamhuriya Avenue P.O. Box 48 TLX : 22190 FAX : 70898	Single 365 Sポンド Twin 485 Sポンド * 繁華街にあり長期滞在 者が多いため、空室が少 ない。食事は西洋風
Sahara Hotel ☆	75240, 75243, 75246	El. Gamhuriya Avenue P.O. Box 3708 TLX : 22044	Single 329 Sポンド Twin 463 Sポンド * スーダンスタイルのホ テル

(3) 住宅の探し方

前任者がいる場合には、そのまま引継ぐのが一番楽である。なければひとまずホテル住まいをして、知人に幅広く声をかける。住宅供給公社 (SUDAN Development Company) が提供している外国人向け住宅は、6階建てで安くてよいが、半年から1年の空き室待ちで、競走率も高い。片手間に不動産業を営む者もあるが、右から左へスムーズに事が運ばない国がらであるから、気長に探すしかない。

(4) 住宅の選定上の留意点

外国人向けの絶対数が少ないので、選り好みしていると、なかなか物件にありつけない。一般に、外見はよくても家の中のトラブルが多い。特に、下水のつまり具合、水の経路、電気経路等、思わぬところに欠陥があるので、そのことを頭に入れてチェックすることが必要である。扇風機やクーラーがあっても、じつは動かなかったり、電燈もつかなくなったりすることがよくある。また停電が多いので、発電機の有無もチェックしておく必要がある。スーダンではウォータークーラーという水冷式送風機を備えた家が多いが、これは砂嵐の時や酷暑には役に立たないので、日本でいうエアコンのほうが望ましい。

下水についても、停電や公共用ポンプの故障で家の前にあふれているのをよくみかけるので、周囲の道路状態も見ておく必要がある。

何かの欠陥がみつかったら修理するという約束になっても、修理人はなかなか来ないし、来ても部品がない等でなかなか直らないことが多いので、完璧とまではいかななくても、使用可能になったら契約するほうがよい。

また、大家が国外に住んでいて家だけがあるような場合には、修理は全部個人負担になると考えたほうが、精神衛生上よい。

外国人向けの住宅には、だいたいテーブル、ソファ、洋服ダンス、ベッド、洋風の食器や台所用品、冷蔵庫、冷凍庫等がついているが、確認しておく必要がある。

電話のある家は少ない。あっても使用できない家が多く、連絡には直接出向かなければならないので、なるべくなら在留邦人が近くににいるほうがよい。

(5) 住宅の契約

1年間契約で、1年分の家賃が前払い。ほとんどが水道料金込みで、Sポンドだてで契約書をかかわすが、ほとんどの大家は、支払いをドルで要求する。家賃は1,000~3,000US\$/月(1989現在)である。毎年上がるので、当初はかなりの負担になる。

(6) その他居住上必要な事項

故障が多い所であるので、ドライバー、テスター等、ある程度の修理用品と、砂嵐の時のすき間対策(目張りテープや新聞紙、ガムテープ等)を持参したほうがよい。

暑い時には、花ござやい草の座布団等があると過ごしやすい。

停電時の懐中電灯、ローソク、ライター等は必需品である。電池は売ってはいるが、不良品が多いので、できれば充電式のものにして、充電機を持参したほうがよい。なおJICA専門家は、録音テープ類を含めて、電気製品がみつかり、多額の税をとられるので、そのむね考慮して持参する必要がある。

また、灯油用ポンプがあると、発電機の給油に便利である。

家庭用燃料は、電気のほかにプロパンガスや炭であるが、発電機用の燃料とともにプロパンガスは、品切れになることが多いので、スペアを1本以上用意しておくことが望ましい。炭はマーケットにあるし、炭用コンロは空カンを利用して作ったものが、10~30Sポンドで売られている。

最近、発電機用エンジンオイルに不良品が多いといわれているので注意を要する。

住 宅

主な不動産屋

場 所	TÉL
① Sudan	72832
② Konona	42462
③ Tirtir	77944
④ Ibrahim	80168

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

入国に際しては、予防接種はチェックされないが、医療事情や、任国外への立寄りのことも考えて、できるかぎりの予防接種を受けておいたほうがよい。黄熱病、コレラ、A型肝炎(γ-グロブリン)のほか、できれば流行性脳脊髄膜炎、腸チフス等も受けたいものである(流行性脳脊髄膜炎は、流行時には、在スーダンの日本大使館で受けることも可能だが、ワクチンがあるかどうか問合せてみるとよい)。土や下水に接触する関係者は破傷風、子供は、ポリオや結核に対しても、万全の注意が必要であろう。

(2) その他赴任前に準備したほうがよい事項

眼鏡、コンタクトレンズ等の調達は難しいので、赴任前にスペアを用意すること。

砂嵐があるので、コンタクトよりは、眼鏡を用意するほうが適当と思われる。度のないサングラスは売っているが、しっかりしたサイズの合うものを捜すのは大変である。

歯科医はあるにはあるが、ことばの関係で必要な治療は赴任前にしておいたほうがよい。

常備薬についても、内服、外傷、皮膚薬等、一通り携行したほうがよい。特に、トゲ、切り傷はもとより、下痢、発熱、虫さされの注意は万全を要する。蚊に対する蚊取線香(マットは停電の時は使用不可)や防虫スプレー、防虫塗薬のほか、かゆみ止め、マラリア治療薬等が必要であろう。また、ハエタタキやハエ取りリボンがあれば便利である。

下痢に対しては、正露丸、ワカ末、抗生物質のほか、脱水症状に対して、ポカリスエットの粉末、麦茶等を多く持ちたい。また、蛇足ではあるが、浄水器とロート、慮紙を持参したほうがよい。

発熱に対しては、熱があると、マラリアが疑われてしまうことが多い。薬局で医師の処方箋とおりの薬がない場合もあるので、風邪の対策として、オラドール口中錠、のどあめ、風邪薬、うがい薬、解熱剤、抗生物質各種を用意したい。

医 療

4-2 医療事情

(1) 医療機関

大学病院, 公立病院のほか, 個人, 教会系の病院および診療所があり, 大学病院や公立病院は無料であるが, 混雑がひどく, ことばの問題や衛生面で外国人は利用していない。

1983年に日本の医療協力で建てられたイブンシナ (IBNSINA) 病院は, 新しいだけに美しく, 設備もだいたい備っている。現在, JICA専門家が1名派遣されており, ここ数年間は, 岡山大学から日本人医師が技術援助に来ている。消化器科, 泌尿器科, 耳鼻咽喉科があり, 一応他病院からの紹介者を診察しているが, 日本人は例外的に診てもらえる。

この他, 大学病院等の医師が夕方から開業している個人病院や診療所があり, 会員になると24時間診察が受けられる。

また, カイロの日本大使館から巡回医務官が年2回来訪するので, 大使館で相談に乗ってもらえる。

日本人が利用する医療機関

病 院 名	場 所	TEL	診療時間	備 考
イブンシナ病院	Ammarat, Cemetery R.D	47702	7:30~ なるべく早目 に。 休日：金曜日	診療科目： 消化器科, 泌尿器科, 耳鼻咽喉科 料 金： 入院 1000 Sポンド /月

日本人が利用する医療機関 (つづき)

病 院 名	場 所	TEL	診 療 時 間	備 考
Khartoum Clinic	Ammarat st 25	44475 44479	9:00~12:30 予約制 休日：金曜日	診療科目： 内科，外科， 小児科， 産婦人科 料金： 50 Sポンド～ 会員は24時間 診療可能 (会費1000 Sポ ンド/年)
Dr. Mahir Saad Mehauni	Riyad	222086	緊急時をのぞ いて予約制で 9:00~12:00, 17:00~21:00 休日：金曜日	診療科目： 歯科 料金： 300 Sポンド/本 ほかに50 Sポ ンド

(2) 緊急時の対応と措置

日本人の中にはKhartoum Clinicの会員になって、24時間の緊急時対応をしてもらっている人が多い。

その他、難しい手術等は、ヨーロッパへ行くか、日本へ帰国するしかない。しかし、この方法で緊急時に対応できるものかどうか、疑問点も残り、今後の、対策が望まれる。

4-3 医薬品等

(1) 携行することが望ましい医薬品

携行医薬品のほかにワカ末、ポカリスエットの粉末、オラドール等。

(2) 任国で調達できる医薬品

これは必ず調達できるといえる薬はない。大部分は輸入品で、一度流行がおこれば、どこへ行っても品切れという状態になるし、医師の処方箋どおりの薬があるともかぎらない。

医 療

(3) 任国で調達できる衛生用品

これも必ずあるとはいいがたいが、トイレットペーパーや紙おむつ、ベビーローション、殺虫剤、シャンプー、石けん、生理用ナプキン等は手に入りやすい。ただし、ナプキン等には、虫も混入しているので、清潔そうなものを選びねばならない。品質はよいとはいえない。

(4) 医薬品を使用する場合の留意事項

医薬分業で、一般の人は医師の処方箋が必要だが、外国人は処方箋がなくても購入できる。

環境の変化、食生活の変化によって、赴任時には必ずといってよいほど下痢になる。熱の出ない下痢ならば、あわてて下痢止めを飲む前に、ポカリスエットや麦茶、カルカデ(現地の飲物)を飲んでようすをみるほうがよい。なおも続くようなら、①正露丸、②ワカ末、③抗生物質と、2~3日ずつようすをみながらかえていくこと。抗生物質は、1回飲み出したなら、同じ種類のものを3日間は飲むようにしないと耐性菌ができるので注意を要する。また、いつまでも飲み続けると、肝臓をわるくしたり、副作用もあるので、慎重にしたほうがよい。

日本人が多く利用している薬局を記しておく。

日本人がよく利用する薬局

店 名	住 所	備 考
キャンベル薬局	El. Gamhuriya Avenue	24時間オープンで、薬品のほかに、ベビー用品がある
Family Pharmacy	Ammarat st 15 コプト教会隣り	薬品のほかに、ベビー用品、ティッシュ、ナプキン等

4-4 妊娠, 出産, 育児

(1) 妊娠した場合の対応

キリスト教系のSister's Maternity病院 (TEL. 75159) があり, 設備も整っている。

(2) 出産後の対応

酷暑に加えて, 厳しい環境状態にあるため, 多くの日本人は出産のために帰国する。

(3) 育 児

哺乳ビン, 粉ミルク, 紙おむつ, ベビーパウダー等のベビー用品は入手可能であるが, 食料品と同様に品切れになる時があるので, 買いだめをして急場をしのいでいる。

牛乳は, 原乳がほぼ毎日入手可能なので, 加熱殺菌をして使用している。

在留邦人のあいだでは, 学齢期前の子供を持つ親同士でベビーサークル会を結成し, 意見交換や助け合いを行っている。

4-5 手 術

(1) 任国で可能な手術

消化器系の手術 (痔の手術等), 結石 (超音波破壊) の手術等。

(2) 手術設備の状況 (イブンシナ病院)

日本の中規模病院程度に整っている。

(3) その他手術入院時の留意事項

食事はスーダン料理が出される。

梅毒, B型肝炎, エイズの陽性者が多いという検査結果の報告もあるので必要以上におそれることはないが, 注意するにこしたことはない。輸血は, 緊急時はやむを得ないとしても, できるなら避けたほうがよい。

医 療

4-6 任国でよく罹る傷病

(1) 一般の疾病

乾燥しているうえ、ほこりっぽいので、喉をやられ、風邪をひく人が多い。

結膜炎やあせも、ただれ等もおこしやすい。飲水や食物からくる下痢のほか、発汗による体内の電解質不足から来る脱水症状(だるい、立ちくらみ、はき気等)もおこしやすい。

かぎられたOffice timeの中で、仕事を進めようとする、どうしても無理をしがちになり、酷暑と重なって、疲労、肝炎、伝染性疾患に罹患しやすくなる。

飲水には多量の石灰分が含まれているので、体質によっては結石を生じやすいといわれている。

(2) 風土病、伝染病

ナイル川流域には、ビルハルツ住血吸虫が生息するので、川での水泳や、水への接触は避けたほうがよい(貝の中から出てきた幼虫が皮膚から感染する)。

ハマダラ蚊が媒介するマラリアが多く、特に雨季あけから大流行するので、蚊への対策が必要である。

発熱するとまずマラリアを疑われるが、もうひとつ多い疾患に腸チフスがある。疲労、食物、水に注意をし、発熱時に体のどの部分に発疹がでたのか調べておくと、診断のたすけになる。

また、流行性脳脊髄膜炎が大流行することがある。大使館を通して予防接種が可能だが、流行時に予防接種の証明がないと、スーダンからの入国を受け入れない国があるので、注意を要する。

細菌性下痢のほかに、ランブル鞭毛虫による下痢もみられるので、特に子供の下痢が長びく時は要注意である。

この他の風土病や伝染病がないというわけではなく、特に地方に行く場合には、注意をするにこしたことはない。隣国エチオピアに多い狂犬病も、当然あると考えるべきであって、不用意に動物に手を出すことはさし控えたいものである。

(3) 有害動物、病害虫

ハルツーム周辺では、ハマダラ蚊をはじめとする蚊とハエが多い。また、時々アリの噛まれることがある。たまに、小さなサソリをみかけるといわれている。

スーダン南部の方ではツエツエバエや、川の近くではブユ等がいる可能性もある。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

道端には水瓶が用意され、誰でも自由に飲むことができるが、これらは絶対に飲まないほうがよい。町の水道もかなり老朽化しているうえ、水道水は白濁していて、済置すると白い結晶が沈殿する。かつて農薬が混入していて問題になったこともあり、濾過器を通し、煮沸することが必要である。濾過器を通した後もCaイオンが多く含まれているために、煮沸すると炭酸カルシウムが沈殿するが、冷やした後、濾紙でもう一度濾過するか、上澄みを飲むとよい。

飲料水が原因かどうかははっきりしないが、結石の患者が多いので、持病のある者は事前に薬を服用し、なるべく水分を取って排尿をうながす必要がある。

水分の保給は大切な健康管理であり、外国人は各自ステンレス製の魔法瓶を用意し、必要に応じて水分の保給とうがいに努めている。

なお、停電が多いので、水道ポンプがまわらないことも多々あり、水の確保が必要である。

(2) 濾過器の入手法

スーダンで入手できる濾過器は中国製で、セラミックスタイプのものである。いつでも入手可能とはいえないうえ、セラミックタイプは濾過が遅いし、臭気までは吸ってくれないので、日本の濾過器を持参するほうがよい。交換用フィルターは、6カ月用が1~2カ月でつまるので、多数用意したほうがよい。

(3) その他保健衛生に留意すべき事項

砂嵐の時には目薬も必要品となる。

子供は何回もシャワーを浴びさせ、あせもの予防に努めることが必要である。また、抵抗力のない幼児を連れてのスークでの買物は、できるなら避けたほうがよい。ほこりっぽいうえに、乾燥を防ぐため、野菜には水をかけるので足元がすべりやすい。また、ラマダンの時には、どこへでも唾を吐くので不衛生である。

夜間の外出には防虫スプレーを忘れないようにする。

教 育

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

スーダンでは初等教育6年(7才~12才)までが義務教育で、その後3年、3年、6年の中等・高等・大学教育がある。その他に4年制の技術学校がある。

(2) 日本人学校

ない。

補習校が、月、木のP.M.3:30~5:30まで、日本大使館内で開設されており、国語の授業を行っている。1989年現在、生徒数8名。光熱費その他雑費代として10US\$/月を納める。

在日本人が担当しているが、先生不足がひとつの問題でもある。

教科書は毎年大使館経由で入手できる。

(3) 現地校、外国人学校

アラビア語の現地校へ通学する日本人は、今のところない。

主な外国人学校は次のとおりである。

主な外国人学校

学 校 名	場 所 / TEL	修業学年	修業時間	その他
Khartoum American School	Ammarat st 63 TEL: 221386	幼稚園 ~9年生	7:30~13:45 休日: 金, 土	入学金: 1100 US\$ (1989年) 授業料: 2615 US\$ ~5850 US\$/年 (1989年)

※ 授業料は学年によってことなり、毎年高くなる。英語の特訓クラス(E.S.L)があり、場合によってはE.S.Lと本来のクラスとのかけもちになる。授業は英語で行う。

主な外国人学校 (つづき)

学 校 名	場 所 / TEL	修業学年	修業時間	そ の 他
Khartoum International School	Ammarat st 61 TEL: 223738, 71089	1年生～ 11年生	7:45～13:30 休日:金,日	入学料: 200 Sポンド 入学金:不明 授業料: 8,000～9,000 Sポンド/年

※ 授業料は毎年高くなる。低学年と高学年とで、同敷地内で学校が2つに分かれている。学年によっては、定員オーバーで入学困難な場合もある。E.S.Lクラスがある。

その他の外国人学校は以下のとおりであるが、いずれもかなりの語学力がないと入学できない。

その他の外国人学校一覧表

学 校 名	TEL	修業学年	授 業
Unity for Girls	75531	7～12年	英語
Comboni for Boys	72564	1～9年	アラビア語 英語
St Francis	70564	1～6年	英語
Sisters	72528	3～10年	アラビア語 英語
Hellenic	71472	3～10年	ギリシア語
Italian	43163	幼～6年	イタリア語

だいたい8月が新学期であるが、学校によってことなっている。
 大部分の日本人子女は、ほかの学校に比べて授業料が高い欠点があるものの、設備のよいAmerican schoolへ通っている。
 通学は、自家用車か、有志による会員制のバス(200～300Sポンド/月)による。

教 育

(4) 幼稚園

前記の外国人学校の中で、幼稚園を置いているところもあるが、多くの日本人子女は、RIYAD schoolへ通っている。

学校名	場 所/TEL	保育年令	保育時間	保育料
RIYAD school	Ammarat st 25	3才から	8:00~11:30 休日:金,日	1000 US\$~ 1800 US\$/年 (1989年) (5月~2カ月間は、 夏季保育となり、 別に300 US\$)

5-2 入学手続きおよび授業料

(1) 日本人学校

日本人学校はない。

補習校への入学は、在留届けを大使館に出す。

授業料は無料。光熱費、雑費、10US\$/月(1989年)を納める。

(2) 現地校,外国人学校

就学児童は、日本から英文の在学証明書または、卒業証明書、成績証明書、身体調査票を持参する必要がある。

American schoolの場合、前記3つの書類を持って学校へ出向き、学校側の書類に必要事項を書き込み、入学試験を受ける。その結果クラスを指定されるが、時には希望のクラスに入れないこともある。E.S.Lクラスと本来のクラスを掛けもちする場合には、その分の授業料が加算される。

授業料は前記のとおりである。

(3) 幼稚園

直接幼稚園へ出向いて申込み用紙に必要事項を書き、入園料100US\$を支払う。

料金は前記のとおりである。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

American Centre (TEL 40880) の中に図書館があり、利用できる。
 その他に、French Cultural Centre (TEL 72837), Soviet Cultural Centre (TEL 81258) 等がある。
 日本大使館内に、英語版の日本文化に関する本と、日本語の読み物が数冊置かれており、自由に利用できる。

(2) スポーツ施設

スポーツ施設は会員制で、会員は、食堂やビデオ等の附属施設が利用できる。

スポーツ施設

施設名	場 所/TEL	備 考
アメリカンクラブ	Khartoum II TEL : 70114	テニス, 水泳, 卓球, 食堂, ビデオのほか, 各種行事がある。 入会金 : 300 Sポンド 個人会員 : 900 Sポンド/年 ファミリー会員 : 1,300 Sポンド/年 (1988年) 会員の中から保証人が2名必要
ヒルトンホテル クラブ	ヒルトンホテル 地下 TEL : 74100, 78930	テニス, 水泳, 卓球, ボーリング, ビリヤード, ビデオ, サウナ等 入会金 : なし (年会費に含まれる) 個人会費 : 4000 Sポンド/年 (1989年)
カルツーム ゴルフクラブ	AL Hamadab先 のタンクの近く TEL : 43068	砂漠の中のゴルフ場, ゴルフ用具 のほかに運動靴と水筒が必要 入会金 : 500 Sポンド 会 費 : 600 Sポンド/年

教 育

その他のスポーツ施設

施設名	場所/TEL
Coptic	Ammarat st 11 TEL : 43502
Arab	TEL : 41262
Armenian	TEL : 43165
German	TEL : 42438
Greek	TEL : 43757
Indian	TEL : 45382
Italian	TEL : 42322
Sudan = British	TEL : 72044

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

各学校の担任に相談すれば捜してくれる。また, American Centreの中には, English Teachingクラスがある。

(2) 通信教育

赴任時に海外子女教育財団にて, 通信教育の申込みを行うと, 毎月ごとにテスト用紙や学習の手引きを送ってもらえる。

30,000円/年(1988年)

(3) 携行したほうがよい家庭用学習教材

教材は不足しているので, 学齢期に応じた教材や参考書は, できるだけ携行したほうがよい。なお, 補習校では漢字練習もあるので, 学年に応じたます目ノートが必要である。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

失業者は多いので使用人にはこまらぬが、英語のわかる使用人は少ない。お国がら、イスラム教徒は、お祈りの時間やラマダン(断食)等があり、その点を考慮して使用しなくてはならない。エチオピアから流れてきたエチオピア人のほうが、よく働くといわれており、彼等のコプト教(キリスト教系)のほうが、日本人には受け入れやすいかも知れないが、労働許可証の確認が必要である。

停電やガソリン不足が慢性的なため、バスやタクシーが走れず使用人が来られないとか、停電で仕事ができない等の障害もある。

一般の通勤者は朝食を取らず、職場へ出かけ、9:00~10:00に朝食を取る。職場によってことなるが、一般にoffice timeは、だいたい7:30~14:30で、それ以後が昼食となる。金曜日が休日。

一軒家に住む場合、運転手、ボーイまたは、メイド、門番兼庭師等が必要になる。

6-2 運転手

(1) 雇用

英語がわかり、以前外国人の下で勤務した体験を有する者のほうが、技術的にもよい。通勤に乗り物を使う遠距離に住んでいる者は、バスやタクシーが止まると来られないので、避けたほうがよい。

試用期間をおいてから契約をするほうが無難である。使用人の紹介者は、慣れ合い的になるので避けたほうがよい。

賃金は毎年上がっており、450~800Sポンド/月(1989年)。月末払いで、ボーナス年1回(12月に1カ月分)のほか、断食あけの祭りや犠牲祭に20Sポンド程度の心づけをする。

一般事情の項で記したように、朝食をだすが、これが不可能な時は、朝食代として30~80Sポンド/月を与える。イスラム教徒の場合には、ラマダンの時は食事をださないが、厳しく教えを守る人と、そうでない人とさまざまである。

(2) 日常管理、教育指導

運転手の場合、勤務時間は、7時から3時ごろまでで、朝は洗車をさせ、買物の時は荷物運びをさせる。会合が長引くような場合は、時間を指定して再度来させるようにする。

運転時のマナーや技術はむろんのことであるが、車のキーの受け渡しや、待ち時間中にはほかの運転手と話をしたり、車から離れることのないように徹底させる。

家庭の使用人

(3) その他の留意事項

常に家族が話し合っ、一日のスケジュールを組み、車が今どこにあるかを把握して、うまく回すよう協力する必要がある。

不幸にして、事故にあった場合には、主人はおもてに出ず、運転手に処理させる。

6-3 メイド、サーバント

(1) 仕事の人数と種類

使用人の人数は、家族構成や住居の条件によってもことなるが、多くの日本人は、皿洗い、掃除、洗濯(アイロンも含む)で1名を雇う。料理は味つけや衛生面から主婦が行っている家庭が多い。

スーダン人を雇う場合はボーイが多く、メイドの場合はエチオピア人が多い。

(2) 雇 用

運転手の項で述べたように試用期間をおいたほうがよい。給料は能力や勤務年数によって多少ことなるが、300~500Sポンド/月くらいで、毎年値上げを要求される。

(3) 日常管理

勤務時間は、8:00~14:00くらいまでで、はじめに、やるべきこととやり方を、しっかりと覚えさせる。また、仕事の間に朝食をとらせるかどうか、とらせるならば、その時間をきちんと守らせる。仕事が終わったら帰ってよいのか、それとも14時まではいさせるのか、きちんと取り決めをしてしたがわせることが大切である。はじめにきちんと教育されない使用人は、途中から教育するのは大変である。

使用人の中には手くせのわるい者もあるから大切な物はいうまでもなく、石けん、マッチ、ビニール袋に至るまで、しっかりと管理することが必要である。多くある所からは、多く取れという感覚が日常化しているので、多くあるところを見せないで、小出しにする等、知恵を働かせること。反面、あまり神経質になると疲れるから、ある程度は大様に構えることも必要である。

6-4 庭師, ガードマン等の雇用

アパート住いや, 入口を数軒で兼用するコンパートメント形式では, ガードマンを1人置いているので, 別に雇用する必要はない。

一軒家では1名, 人の出入りの多い所や24時間警備が必要な所では2人置いている。給料は300~500Sポンド/月。

使用人の手引きで空巣に入られることもあるので, 信用できる者を選ぶことはいうまでもないが, いやな雇用主にならないように努めることも必要である。主にホテルや外国人宅を専門にしているセキュリティカンパニーもある。

交通事情

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

ハルツーム市内は黄色の車がタクシーで、10~20Sポンドで利用できる。その他に、自家用の小型トラックも合乗りタクシーとして利用されているが、外国人は利用していない。

バスは0.5Sポンドで定まった路線を走っているが、ほとんどの場合満員で、ぶらさがって利用するので、出入口のドアや窓ガラスのないことが多い。この他に大型トラックを改造したバスも走っている。運行時間は朝は6時くらいから夕方7時くらいまでである。7時以降や、昼間12時から3時くらいは、食事時間と昼寝時間であり、7時以降は帰宅ラッシュに重なるので交通手段がほとんどなくなる。

なお、タクシーの中には、通勤途中の副業として走っているものもあり、空車を見つけたからといって必ずしも乗せてもらえるとはかぎらない。

また、ガソリンがなくなることがときどきあり、公の交通手段がなくなることもあるので、車は必要不可欠である。

遠距離へはバスか鉄道および飛行機があるが、まず旅行許可証を取るところから始まって、切符を手に入れるまでには、かなりの苦勞と日数が必要である。

(2) 自家用車を利用する場合

スーダンでは右側通行である。全体的に老朽化した車が多く、途中で故障で止まっていたり、突然右・左折をするので危険がともなう。信号機も停電が多くてあてにならないし、信号無視も多いので注意が必要である。

また、道路の大部分はラフ道路で、いたるところに穴があるので、これを避けるため対向車線に入ってきたりするから、当初は道路マップを覚えるほかに、穴の状態をよく知っておく必要がある。

なお、自家用車の輸入は厳しく規制されているので、車を持ち込むのは大変である。しかし、国内でよい中古車を探すのも大変なので、なるべく早く、前任者や帰国する日本人、あるいは、外国人からゆずり受けるよう、手配するのが賢明である。

交通事情

ガソリンはナンバー別に1週間に1度指定された日に、指定されたところで入れると、6ガロンまで9.5Sポンド/ガロンで、指定日以外は、10.5Sポンド/ガロンになる。全体的に不足ぎみであるから、余裕をもって行動することが必要である。どちらかという、ガソリンよりは軽油のほうが入りやすいが、軽油をあつかっているスタンドにかぎりがある。

(3) レンタカーを利用する場合

レンタカーの会社はInternational Rent A Car (Tel 77198, P.O. Box 3830)で、Sayed Abdl Rahaman道路のKhartoumスタジアム近く。

車種	料金	備考
ランクル : 軽油代	1200Sポンド/日 55ポンド/ガロン	ドライバーつきだと別に70Sポンド/日と1.55ポンド/km (1989年)
乗用車 : ガソリン代	750Sポンド/日 115ポンド/ガロン	

(4) 道路マップ

Greater Khartoum (Khartoum, Omdurman, Khartoum North) の地図は、Sudan Survey Departmentによるものがあり、ホテル売店や書店で手に入る。

スーダンの全体の地図はOxford大学から出ている、ホテル売店や書店にある。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

まず、相手の免許証なり、身分証明書を受け取っておく。けが人がいる場合は、近くのタクシーなり乗用車なりに救助を求める。この時、けが人の名前や運転手の名前を紙に書いておいてもらうこと。その後、警察と大使館へ連絡して事故証明(事故調書)をもらう。

交通事情

(2) 救急病院

救急病院も救急車もあるにはあるが、しっかりした救急体制がないので、あてにしないほうがよい。

(3) 盗 難

スーダン人は人がよく、比較的治安はよいが、燃料の抜き取りやバックミラー等の部品は盗まれた例があるので、注意するにこしたことはない。駐車の際のハンドルロックやカギの確認、人通りの少ない暗い場所に車を置かない等の用心が心要である。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

右側通行。一部、ロータリーや一方通行がある。ロータリーでは左方優先、橋のような坂道と道路が交差しているところでは、常にさがって来る車が優先。△マークが案内標示で、○型が制限、禁止標示である。

(2) 対処方法

スピードや飲酒運転の取締りはないが、事故は多いので注意を要する。信号機は停電で動かないことや、信号無視も多い。

運転手は右・左折の合図を出しているつもりでも、車のランプが故障で、合図なしで曲ったり、道路事情がわるいため、急に対向車線に出て来たりするので、臨機応変な運転が望まれる。

夜は11時以後は検問があるので、I.Dカードまたは、パスポートを携帯するほうがよい。

7-4 車の修理

(1) 部 品

車の修理には必要な部品が少なく、外貨不足のため、なかなか手に入らないことが多い。また、純製部品は少なく、エンジンオイル等も粗悪品が多いので、消耗度の激しい物品は持参したほうがよい。

(2) 修理工場

小さな修理店も含めれば割に多いが、満足の修理ができるかは別の問題である。ゴールデンアロー社(トヨタ代理店)には、現在日本人メカニックが1名駐在している。

修 理 工 場

店 名	TEL
ゴールデンアロー社 (トヨタ代理店)	46920
Hassouna & Sons (日産の代理店)	47482, 42729, 45206

通 信

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

電話のない家が多く、あっても利用できない時が多い。新しく電話の申込みをしても、何ヵ月も待たされることが多い。

(2) 国内電話

ダイヤル式で市外番号は次のとおり。

Atbara	021
Gedaref	0441
Kosti	071
El Obeid	081
Kassala	041
Shendi	0161
Port Sudan	031
Sennar	061
Wad Medani	051
Khartoum(外から)	011

(3) 国際電話

電話があっても、国際電話利用の登録のない電話ではかからない。登録済み電話はダイヤル直通で通じる。例えばJICA事務所なら、

日本 東京 JICA事務所受付け
0081 3 346 5311

日本との時差は7時間、料金は120Sポンド/3分間である。

公衆電話は以下のとおり。

Ⓐ Hot line; Khartoum IIのスーク近く

Ⓑ Middle RD.コプトクラブ前のCANNONの2階D.H.L.

Ⓒ Central post office (El. Gamhuriya Avenue) 中のInternational telephoneで受付けるが、こちらの方は国営で料金は半額程度だが、待ち時間が長く、実際に通じない場合もある。料金は必要。

8-2 電 信

(1) テレックス

回線は各政府機関, ホテル, 大使館企業, 各国援助機関等に設置されている。

一般の人が利用するには, Central post office (El. Gamhuriya Avenue) の中の, Telex Servicesで受付けている。料金は日本まで3分間69Sポンド。受信の確認までには2時間くらい時間かかる。

(2) ファクシミリ

あまり普及していないが, Hilton Hotelと, Acropole HotelにはFAXがある。料金は120Sポンド/枚。こちらのほうも, 回線が空くまでの時間待ちで, 電話と同様に, 受信されなくても回線使用料をとられる。

(3) 電 報

手紙と同様に配達されるので, 手紙のほうが速いといわれている。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

国外からの郵便物が紛失したことはあまりないが, 先に出した物が後に来るなど, ストや砂嵐, その他諸々の理由による空港閉鎖もともななって不定期である。

こちらからの郵便物が一番速く届くようにするには, 空港の郵便局で投函することであるといわれている。

日本へは, 葉書も手紙も1Sポンドで届く。

日本人の多くは, 日本の切手や封筒を持参して, 大切な物や速く届けたい物を帰国者に託し, 日本国内で投函してもらっている。日本の道路に立っているようなポストはない。

船便, 船荷は6ヵ月以上を要し, 場合によっては途中でなくなることもある。引取りには多大な努力が必要である。

(2) 課 税

日本からの郵便ではスモールパック (2kgまで) が一番受取りやすいが, 中は検閲されて, 酒類は没収, 電気製品には多額の税が課せられる。

マスコミ

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

Sudan Times	英語
Sudan News Agency (SUNA)	英語 アラビア語
AL. SIYASA	アラビア語
AL. ISBU	アラビア語
AL. SHAMASHA	アラビア語

(2) 本邦日刊紙

大使館には、朝日、読売、日経、The Japan Economic Journalの4紙があり、利用可能である。OCSサービスを利用する日本人もある。

OCS: Khartoum Office; c/o Cargo Air Servies, P.O. Box 8291,
st 27, New Extension, Khartoum
Tel 40041, 40711

(3) 欧米紙

街でみかける欧米紙はなく、『Newsweek』や『Times』等の週刊紙をたまに本屋でみかける程度である。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

国営放送でRadio OmdurmanとR. Wad Madaniがあり、A.M.6:00~P.M.12:00までアラビア語で放送がある。

(2) ラジオジャパン

短波ラジオが必要。日本語では

P.M. 6:00~P.M. 7:00 21700 ヘルツ

A.M. 10:00~A.M. 10:30 21695 ヘルツ

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

BBC, VOA, その他。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

国営テレビが1局あるのみ(9チャンネル)で、P.M.5:00~11:30、アラビア語だが、P.M.7:50~8:00に英語のニュースがある。休日には放映時間が延長される。

(2) テレビ受信

ヨーロッパバル式テレビが必要で、日本のテレビでは受信できない。ただし、多くの日本人は、日本からのビデオを映すために、日本式テレビを持ち込んでいる(ビデオ、テレビともに課税の対象になる)。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-1 映画, 演劇

(1) 映画館

映画館では各国からの輸入映画が観られるが, 最近では香港製のものが多いといわれている。映画館内の設備は, あまりよくない。Friendship Hallは中国の援助で建てられたもので, 会議室もある。

映画館一覧表

映画館名	TEL
Blue Nile	80170
Coliseum	72418
Friendship	72223
Halfaya	33305
Omdurman	54515
Watania	77233

(2) 劇場

National Theatre

TEL: 51549

10-2 出版, 書籍

(1) 一般事情

アラビア語の簡単な雑誌や新聞等は, 空港や大きなバス停近くに建っている売店で購入できる。

英語, フランス語の読物は, ホテルの売店でも購入可能である。

(2) 書店

SUDAN Book Shop

Bank of SUDANの前にあり, イギリス・ドイツ・フランス・アラビア語の本が置いてある。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

American Centre内に1日2時間週4日, 2カ月間くらいずつの英語コースが3コースあり, 約2カ月前に申込みを受けつける。

各コースとも, 300Sポンド

場所: Khartoum - II

TEL: 40844

アラビア語の学習施設は以下のほか, 数カ所にある。

学 習 施 設

施設名	場 所
Sudan Arabic Institute	Riyadh No45 Q12 sittiin st
International Institute Khartoum	Khartoum IIのZalat Roadで, Agip Gas stationの近く

前2つの施設ではいずれも50時間コースで, 2500Sポンド。

なお, International Instituteのほうは, 英語やアムハラ語のコースもある。

(2) 家庭教師

家庭教師は, 多い。知人の紹介や, 英語の場合はアメリカンクラブの掲示板に広告を出すとよい。英語の場合, 英語を母国語としている人で10US\$/時間。

10-4 文化活動, 文化施設

(1) 一般事情

International fairは年1回開かれるが, 会場への輸送手段や関係当局の人員配備等の点で, 一般大衆には, まだほど遠いものがある。各催物は, 会場はもとより, そこへいたる公共の輸送手段の確保を考えると, 不可能に近いのが現状である。

カルツーム大学の中にアフリカ・アジア研究所があって, かるうじてスーダン文化を他国へ紹介している。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

博物館等は以下のとおり。

博物館等の一覧表

博物館等	営業時間	備考
Sudan National Museum 所在地: Nie Ave	8:30~20:30	金曜日は12:00まで 月曜日休館
Ethnographical Museum 所在地: Gama'a st	8:30~20:30	月曜日休
National History Museum 所在地: Gama'a st	8:30~13:30, 15:00~18:00	金曜日は13:30まで 月曜日休館
The Khalifa's House 所在地: Omdurman	8:30~13:30	月曜日休館
Zoo 所在地: Gama'a st	8:30~20:30	月曜日休園

(2) 日本・任国友好協会等の有無と活動内容

- ・ 友好協会はないが, JICA研修帰国者による JICA Alumni Association の設立を申請中である。
カルツーム大学の中のアフリカ・アジア研究所が, 日本の大学や民族関係研究機関と交流をはかっている。

(3) その他の文化活動, 文化施設

文化施設

施設	TEL
British Council (Khartoum)	40881
British Council (Omdurman)	53281
Goethe Institute	77833
French Cultural Centre	72837
American Centre	40876
Soviet Cultural Centre	81258

この他に, 各国大使婦人が中心になって, チャリティバザーや, 各国の文化紹介が行われている。

10-5 写真, ビデオ

(1) 写真

カメラは売られているが, 希望の品や部品が手に入るとはかぎらない。

フィルムはコダックとScotch(イタリア製)。

現像所は何軒かあって, 1日程度で仕上がる。仕上がりはわるくないが, とまどき台紙や現像液が品切れになったり, 他人の写真がまざってもどってきたりする。自分の写真も, そうなる可能性があるので要注意。

外国人が利用する現像所は次のとおり。

現像所一覧表

現像所	場所
Foto First	Amalat st3 Cemetary RD角
Kodak	Cemetary RD

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

(2) ビデオセット

ヨーロッパ・バル式のテレビと、ビデオデッキが入手可能であるが、かなり高価である。3倍速はなく、日本から持ち込んだビデオテープは、スウェーデンで売っているビデオデッキでは再生できない。ビデオデッキを日本から持ち込んだ場合には、多額の税金をかけられる。

町の中にはレンタルビデオテープ屋が何軒かあり、会員になると、1日5Sポンドくらいで借りられる。もちろん、ヨーロッパ・バル式である。

電圧の上下が激しいので、デッキには、定電圧装置をつけたほうがよい。

(3) ミュージックテープ

ミュージックテープ屋も、何軒かある。多くはビデオテープと一緒にになっている。

10-6 音楽鑑賞, 演奏, 民族楽器

(1) 音楽会, コンサート

ヨーロッパ風のコンサートは、年1回くらい、Cultural Centresで行われる程度である。スウェーデン風のもの、各クラブ内で行われる。広告は新聞やポスターに出され、入場券はクラブで発売される。

(2) コーラス, 演奏グループ

ウォルディとその楽団
アフアメッド ムスタハ
オスマン フセイン

(3) ピアノ等

外人が持ち込んだ物以外はない。

(4) レコード

町なかではみかけない。

(5) 民族楽器

キイキイ(1本線のチェロ)、アラババ(4本線ギター)、ワザ(笛)、グルカ(太鼓)。

(6) その他の楽器

Sahara Hotelの近くに楽器店があって、アコーディオン、バイオリン、ドラム、トランペット等を置いている。中には売らない品物もある。

10-7 手芸, 絵画, 美術工芸

(1) 手 芸

日本人の中にはミシンを持ち込んで、洋裁をしたり、手編みやパッチワークを楽しんでいる人もある。

また、トンボ玉(古いビーズ玉)を買ってきて、アクセサリー作りを楽しむ人もある。

各国の大使夫人が中心になって、チャリティバザーも催されるので、手作りのものを出品すると喜ばれる。

手芸用品は、

Mariana Boutique Ammarat st 15のZiraの裏
Annette Sahara Hotelの一角

にあり、糸、リボン、ボタン、バイアス、ゴムヒモ、ファスナー、レース等が手に入る。しかし、品質はよくないし、日本より安いが何でもあるというわけにはいかない。

(2) 絵画, 美術工芸

クレパス, 画用紙程度ならある。

The Central Stationery book shop Sahar Hotelの近く

10-8 趣 味

(1) 園 芸

花屋はZaki (Reyadの中国大使館近く) にあり、切花と鉢植えが10Sポンドより。

(2) 釣 り

スーダンでは手製の投げ網で魚をとっているが、ナイル川には住血吸虫が生息するので、水との接触は避けたほうがよい。

10-9 娯楽, 遊戯, ゲーム

(1) 娯楽, 遊戯, ゲーム

Hilton Hotelの近くに遊園地がある。子供用のブランコ, すべり台は各クラブに設置されている。

日本人会の中に、マージャン同好会, カラオケ同好会がある。

(2) 芸能興行

Khartoum大学内のSHARJ AH HALLで、スーダン政府の教育映画や日本大使館から貸出した邦画が上映されることがある。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

砂漠の中にKhartoum Golf Clubがあって, 会員になると, いつでもゴルフが楽しめる。会員は600Sポンド/年, 入会金500Sポンド。ビジターは1回につき, 50Sポンド。キャディは子供達で1人15Sポンド。ゴルフシューズは使用禁止で, 運動靴を使用する。グリーン(芝生はない)まではティアップして打つ。

日本人会ではゴルフ同好会を作って, 毎月1回コンペを行っている。ゴルフ用品は日本から持参したほうがよい。

(2) テニス

Hilton Hotel Club, American Clubにはテニスコートやプールがある。これらの用品は日本から持参したほうがよい。

(3) スイミング

テニスと同じ。

(4) その他のスポーツ, 用具, ウェア

スーダンではサッカーが一般的なスポーツである。広場があるとサッカー場になっているという感じである。服装は自由。

(5) スポーツクラブ等

スポーツだけのクラブはない。各クラブは, 娯楽施設やレストランが一緒になっている。

10-11 風俗営業

酒場をはじめ, 風俗営業店はみあたらない。Omdurmanにはダンスクラブがある。

10-12 子供の遊び

各クラブには, ブランコ, すべり台, シーソー等が設置されている。子供達は各家庭の庭で遊ぶことが多い。

おもちゃとしては, ビニール製の動物やボール等を町かどで売っている。おもちゃ専門店はなく, 雑貨店の端にボツンとおもちゃをみかける程度である。

乾電池式のもの避けて, 工夫して遊べる物をいくつか持参したほうがよい。幼稚園児くらいまでなら, ビニールプールがあると, 庭での水遊びに最適と思われる。

11. その他のサービス

11-1 美容院

- Hilton Hotel
- Chloe Khartoum II の肉屋ARAKIの斜前のビルtourism office
予約制 カットのみ

11-2 理髪店

- New Life Saloon Gamhuriya Aveの電気屋と、駐車場の間に入って、みやげ物屋の前。
カット 25Sポンド

11-3 日本から持参したほうがよい美容,理髪用品

日本人の多くは、くし、ハサミ、場合によってはバリカン等を持参し、家庭で理髪を行っている。女性はパーマなしでも大丈夫なように髪型を工夫している。

化粧石けん、シャンプー、歯みがき粉、ハンドクリーム程度は入手可能だが、その他の物は持参したほうがよい。

ヘアバンド、ヘアピン、ゴムヒモ等は入手可能だが、よい物はない。家庭用パーマ液を持参するとChloeでパーマをかけられる時がある。

観 光

12. 観 光

12-1 地方旅行上の注意事項

Khartoum Omdurman Khartoum-Northから地方へ出る場合には、travel permitが必要である。現在、オフィシャル・パスポート所有者の観光目的での外出は禁止されている。

仕事上の外出の場合には、所属先から外務省儀典課へレターを書いてもらい、儀典課から旅行許可証を発行してもらう。

許可証取得までには日数がかかるから、早目に申請する必要がある。

各州の出入りの際には、外国人は必ずといってよいくらいチェックされて、数十分は待たされるので、余裕をもって行動する。また、中には英語が通じないチェック官もいるので、近くの人に通訳を頼む等、臨機応変に対応することが必要である。

国内では、ダム、橋、港湾、空港、放送局、発電所、重要工場、軍事施設、警備施設等の写真撮影およびビデオ撮影や、観光施設でのビデオ撮影は禁止されているので、検問所では、カメラやビデオをむき出しにしないほうがよい。

現在、南部では内戦状態が続いているので、この地方への旅行は許可されない。

12-2 主要観光地、保養地ガイド

(1) 主要観光地、保養地

主な観光地、保養地

観光地、保養地	備 考
Jebel Aulia Dam	Khartoumより南へ車で1時間、1930年にエジプトによって造られたダム
6th Cataract	Khartoumの北Sabalokaまで車で約1時間、さらに、徒歩30分、ナイル川の第6番急流

観光地, 保養地	備 考
Meroe	Khartoumの北東Shendiから車で1時間。紀元前4~5世紀頃のクッシュ人のメロエ王朝が築いた神殿跡が残っている。アフリカの古代製鉄の発祥地ともいわれ,ここから出土したメロエ文字による碑文はいまだに解読されていない。神殿から車で1時間くらいのところには,メロエピラミッド群がある。ホテル,レストラン等はないので,Shendiで泊まるとよい
Port Sudan	Khartoumより飛行機で50分,車で14時間,バスで2日(Kassalaで泊)紅海に面し,貿易の拠点となっている港湾都市。サンゴ礁やサメの群が,青い海に美しく映える ホテル Red Sea Hotel
Suakin	Port Sudanから南へ56km。Port Sudanができるまでは貿易の中心地であった都市も今は崩壊し,いにしへの栄華をしのばせるばかりである。ホテル,レストランはない
Kassala	Port Sudanへ行くバスの中継地。奇妙な山とモスクが有名。かつてはこの山から渾々と水が湧き出ていたといわれている
Dinder National Park (6100km ²)	Khartoumから南東約50km。飛行機,鉄道,自動車の便がある。クリスマスから4月までオープンしており,運がよければライオン,バッファロー,キリン,カモシカ類をみることができる

観 光

12-3 旅 行

(1) 自動車

地方への道路はよいが、牛や羊の跳び出しに注意。オイルステーションが少なく、あてにできないので、予備の燃料が大量に必要。水や食料も持っていったほうがよい。

(2) バス

行先によって出発地がことなる。セントラルスークをはじめ、出発地にて切符を買うが、手に入れるまでが大変である。

(3) 鉄道

鉄道の切符も手に入れるのが大変だが、屋根に乗る分には無料だという話である。

Arrivals TEL: 72381

Departures TEL: 75388

(4) 航空機

Sudan Airways TEL: 75803

12-4 エージェント

エージェント	TEL
Air-Handling and Booking Agency	70516
Mirak	74061
Contomichalos and Sons	74040
Olympia	81241
Sudan Travel and Tourist Agency	72119
Jumbo	75014
Thompson and Travel	46038
Khartoum Travel and Tourist Agency	72962

12-5 ホテル等宿泊施設の手配

外国人が利用できるホテルは少ないので、エージェントに依頼したほうがよい。ただし通信事情がよくないので、必ず、手配できるという確証はない。

13. 治安,緊急時の心得

13-1 暴動,クーデター等

(1) 緊急時の連絡

現在南部との内戦状態にあり,何回か試みられたクーデターは,1989年6月30日成功にいったが,まだ,予断を許さぬ状態にある。食料品を求めるデモはたびたび行われているが,幸いなことに暴動にまで発展していない。

大使館を中心に連絡網を作って事態に備えているが,電話連絡が不可能なので,車を使わなければならない,無線連絡も検討されているが,予算等の関係もあり十分とはいえない現状にある。

13-2 強盗,盗難

(1) 一般的治安状況

スリや強盗のような被害はあまりきかないが,アラブ首長国連邦の大使が拉致されたこともある。大使館の周辺は時々警察の巡視もあり,治安状況はよい。

(2) 防犯対策

窓は鉄格子をつけ,ドアのカギは二重にする。貴重品は,さらに,カギつきの場所に分散させて入れる。外燈をつけて外は明るく保つ。必要に応じてガードマンを置く。

(3) 被害時の心得

身体的安全を第一に考え,できるだけはやく,大使館へ連絡する。

13-3 火災,風災害,地震

(1) 一般的災害発生状況

地震はない。火災は時々発生するが,ハルツーム市内の家は外部がレンガであるため,類焼はない。

砂嵐(ハブーブ)が時々あり,特に,5月~7月に多い。1988年には半世紀に一度の水害があり,ハルツームの大半が水につかった。

(2) 防災対策

ハブーブが来たら窓を閉め,すき間をテープや新聞紙で埋める。ウォータークーラーはポンプの状態にして,水だけが流れるようにする。噴出口は紙やビニールをテープで貼る。ドアの下は細長い砂袋を作っておき,ハブーブが入らないようにすき間を埋める。

ハブーブが終わったら,羽たたきで砂埃をはらう。クーラーがあれば吸入口にタオルをあてると,室内の空気が浄化される。

治安,緊急時の心得

雨期が近くなったら,窓やウォータークーラーのすき間を埋め,雨が
入らないようにしておく。濡れてこまる物はその近くには置かない。
日本とことなって,床はタイルなので,少しの雨なら心配ない。

(3) 被災時の心得

5月ごろまでに食料品,水,発電機用燃料,電池,プロパン,ろうそく,
その他の生活必需品をそろえて災害に備える。停電が長びくと冷凍庫
の食料もダメになる可能性があるので,缶詰や干物も用意しておき
たい。

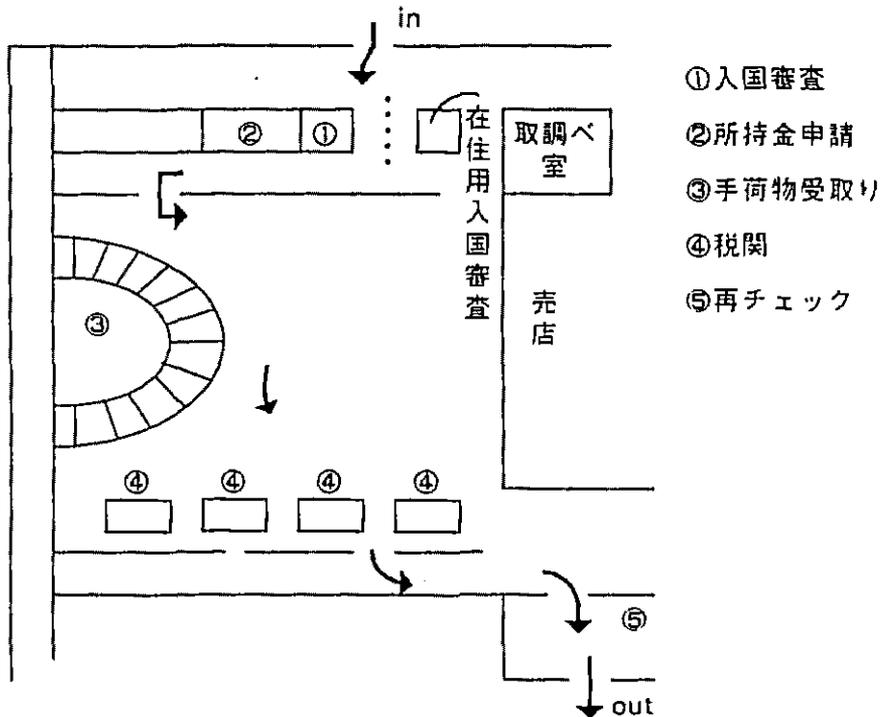
警 察	TEL	999
交通事故	TEL	77777
Ammarat警察	TEL	42777
消 防	TEL	74444
電 気	TEL	72035
水 道	TEL	77256
電話問合せ	TEL	90

出入国手続きおよび帰国手続き

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

14-1 入国時

(1) 空港施設概要



(2) 入国手続き書類

入国カードは前もって配られるので、記入しておくといよい。

(3) 入国審査

JICAの場合は特に問題はないが、一般人で電気、機械類等の技術者の場合は、別室に呼ばれて取調べられることがある。

(4) 税関検査

ベルトに乗って出てきた手荷物は、各自キャリヤーに乗せて検査官の所へ持って行き、検査を受ける。

電気製品、テープには多額の税がかかる。酒類はみつかると没収となる。

検査済みの荷物は、全部に検査官のチェックをもらう。出口ではこのチェックをもう一度確認しないと出してもらえない。

(5) 空港内での注意事項

手荷物紛失事故がよくあるので、税関に行く前に個数を確認する必要がある。

(6) 空港からのトランスポートーション

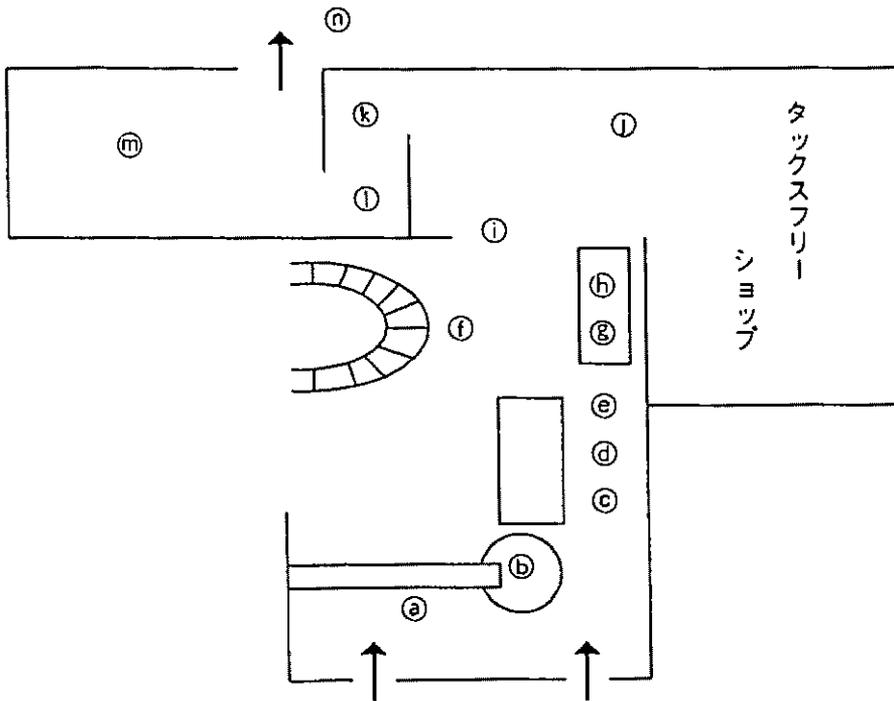
ないと考えたほうがよい。タクシーがつかまれば運がよい。

(7) その他の留意点

所持金の申請がある。サインをもらった申請用紙はUSドルをSポンドと交換する時提示を求められるので、なくさないようにすること。用紙は3週間有効だが、銀行の交換表とともに、出国時まで保存しておくほうがよい。

14-2 出国時

(1) 施設



出入国手続きおよび帰国手続き

空港に向かって建物が三つある。中央は国内線、左側が到着用、右側の建物が出国用である。

入口を入り、カウンター④でチェックイン、出国税を支払い、荷物を預けて、搭乗券と出国カード、無地のしおりを受け取る(しおりは必ず確認して、タラップを上がるまでなくさないこと)。

- ⑤ 出国カード記入
- ⑥ 書類チェック
- ⑦ 出国審査
- ⑧ 再チェック
- ⑨ ④で預けた荷物を持って⑧へ行く
- ⑩ 税関(荷物検査;すべての荷物にチョークでサインをもらうこと)
- ⑪ 所持金申請(終わったら預ける荷物は⑨へもどす)
- ⑫ サインの確認
- ⑬ 待合室(アナウンスがあったら⑫へ行く)
- ⑭ 機内持ち込み荷物の検査(全部あける)
- ⑮ ボディチェック
- ⑯ 待合室(アナウンスがあったら、バスに乗る)
- ⑰ タラップにて、④でもらったしおりをとられる。しおりをなくすと乗せてもらえない。

空港に向って右側が入国時の出口で、左側が出国時の入口になっている。

(2) 出国手続き上の留意点

マルチビザの有効期間内であれば、出国カードを書くだけでよい。

出国税は100Sポンド。ドルは持ち込み以上に持ち出せない。航空券はドルでない買いにくい。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

この項未調査。

(2) 車の処理

車は不足しているので買い手は多い。知人に譲るなり、新聞やアメリカンクラブに広告を出すとよい。

ただし、JICAの場合は税金面でトラブルを生じるので、今後外交官同様の免税処置を要求していくとか、すでに持ち込んだ車をJICA専用車として代々譲っていくなり、何らかの処置をこうじる必要がある。

(3) 家財道具の処分

後任者に譲るか、日本人の中に処分品リストをまわして購入者をつのる。アメリカンスクールやアメリカンクラブに広告を出すこともできる。スーダン人に売る場合は、かなり買いたたかれるので覚悟がいる。

(4) 住宅の明け渡し

家賃は前払いであるから、契約の切れた時点で電気料を清算して明け渡せばよい。

(5) 銀行口座の閉鎖

全額引出しと同時に閉鎖される。

私財の輸送, 引取り, 購入

15. 私財の輸送, 引取り, 購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

業者名	TEL No.
K.S. Ganbert & Sons	71312, 70871
D. Gumuchian	70711
Air Express International	40795

(2) 輸入手続き

輸送業者にまかせるほうがよい。

15-2 自動車

(1) 一般状況

自動車は, 家具と並んで輸入禁止品目に指定されている。

(2) 輸入手続き

まず, 輸入許可書が必要である。輸入が許可されるのは,

- ① 現地人で留学等で2年以上海外生活をし, 特別に認められた者。
- ② 政府間で特に許可された者 (外交官や国際援助機関で, JICAは含まれない)
- ③ 180%輸入税と10%防衛税, 15%附加税を支払い, 特に許可された者
と, なっている。

以上の条件に該当した場合は, Ministry of CommerceにImport licenseを申請し, 許可証がもらえたら, 送り状と一緒に自動車販売業者に引取りを依頼する。

(3) 任国での購入

1960年代の車が走っている現状であり, よい車は少ないが, 新聞やアメリカンクラブの広告による個人の中古車売買と, 時々スークの近くで中古車市場が開かれる。価格は新車で300,000Sポンドくらい。

(4) 自動車登録

自動車販売業者に依頼したほうがよい。

(5) 免許証取得

国際免許証は国内免許証に書き替えねばならない。国際免許証のコピーと写真2枚を添えて,交通警察所へ届ける。

スーダン国内での運転免許証の取得はしやすい。

車検は年1回,1~2月に行う。

(6) 保険,税金

保険会社は多い。保険料は6,000Sポンド/年,割引きなしで,保険金は任意である。免責が大きいので,小さい事故には使えない。

ちなみに,スーダン人を死にいたらしめてしまった場合には,20,000Sポンドくらいであるといわれている。

会社名	住所,TEL
General Insurance	P.O. Box 1555 TEL: 80616, 80617
AL. Baraka Insurance	P.O. Box 3877 TEL: 73043 Telex : 22555, 22479

税金は,年1回の車検時に支払う。

社 交

16. 社 交

16-1 風俗習慣

朝食A.M.9:00~10:00,昼食P.M.2:00以後,夕食P.M.8:00~10:00。

女性は女性同士集まり,男性は男性同士集まる。イスラム,アラブの風習はあるが,それほど強くない。お祈りも人によってしたり,しなかったり,さまざまである。

16-2 パーティでの留意点

特にない。

16-3 来客時の留意点

スーダン人の来客がある時は,豚肉や酒類は出せないので,飲物としてジュースや炭酸飲料,冷水を用意する。昼の1:00と,日没の6:00~7:00のお祈り時間は避ける。ラマダン時には日没以後に招待する。

16-4 訪門時の留意点

午後4:00~6:00は昼寝の時間なので,訪問は避ける。手みやげの習慣はない。

16-5 禁止されている言動

17. 任国公官庁

機関名, 住所, TEL, 執務時間

大部分の官庁はGama'a通りの官庁街に集まっている。

執務時間は7:30~14:00。

機 関 名	Tel
Ministry of Agriculture	70895
Ministry of Defence	74910
Ministry of Foreign Affairs	73101
Ministry of Irrigation	77533
Ministry of Energy & Mining	75595
Ministry of Education	78900
Ministry of Industry	72569
Ministry of Interior	77900
Ministry of Communication	79700
Ministry of Culture & Information	79850
Ministry of Health	73000
Ministry of Finance	77563
Ministry of Commerce	73030
Ministry of Youth & Sports	74032
Ministry of Planning	77003
Ministry of construction & Public works	75000
Ministry of Religious Affairs	75923

在外日本関係機関等

18. 在外日本関係機関等

18-1 日本大使館

場 所	Amarat st3 (New Extention st 3) P.O. Box 1649
TEL	44549, 44554
執務時間	AM8:00~PM2:00 (金曜日, 祝・祭日休館)

19. 地方都市

長期専門家が滞在している地方都市はない。

その他

20. その他

ニューヨーク東銀のパーソナルチェックは、スーダン国内で換金しにくいので、別途に、生活費として現金ドルを持参し、非常用にVISAカードを持参するとよい。

日本人の婦人方が記されたストアガイドがあるので参考にするとよい。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はJICAの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイタスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

— アジア地域 —

1. 中国
2. フィリピン
3. ブルネイ
4. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン、
ジョクジャカルタ、メダン)
5. シンガポール
6. マレーシア
7. タイ
(バンコク、チェンマイ、コンケン)
8. ビルマ
9. バングラディシュ
10. スリランカ
11. ブータン
12. ネパール
13. パキスタン

— 中近東地域 —

1. サウジアラビア
2. 南イエメン
3. シリア
4. ジョルダン
5. エジプト
6. アルジェリア
7. モロッコ

— 大洋州地域 —

1. フィジー
2. パプアニューギニア

— アフリカ地域 —

1. マダガスカル
2. モーリシャス
3. エチオピア
4. ケニア
5. タンザニア
(ダルエスサラーム、ザンジバル)
6. ブルンディ
7. ザンビア
8. ナイジェリア
9. ニジェール
10. トーゴ
11. ガーナ
12. 象牙海岸
13. リベリア
14. ガンビア

— 中南米地域 —

1. ドミニカ共和国
2. メキシコ
3. グアテマラ
4. コスタリカ
5. パナマ
6. ヴェネズエラ
7. コロンビア
8. ベルギー
9. ボリビア
(ラパス、サンクトルス)
10. パラグアイ
(アスンシオン、エンカルナシオン)
11. アルゼンティン
12. ブラジル
(ブラジリア、サンパウロ、レシフェ、
ポルトアレグレ、ベレーン)

JICA

